肥前松浦兄妹心中

岡部 耕大

登場人物

神原満

和子

解体の祝賀二郎（しゅかじろう）

大徳守先生

流れの捨吉

巡査の保造

廃坑（ゴーストタウン）のおばば

末永素好

良子

働かずの吾一

西浦（にしゅうら）のおばば

満鉄

悪の限りを尽し三郎

昭子

萬屋三津五郎

萬屋竹之丞

倭子（しず）（声のみ）

お断り

この作品はすべてフィクションでありこの本に使用しておりますいわゆる方言は博多から筑肥線で伊万里、伊万里から松浦線で松浦までのあらゆる土地の言葉を参考にしたものであり、ひとつの土地の言葉ではありません。

この本に設定されております「松浦」は末盧から松浦という説に従った「松浦」であり現在の松浦半島、郡、市、町とはなんら関係ありません。なお作中の「面浮立」は佐賀県伊万里市山代町の松浦党の影響が濃いとされております「山代浮立」をイメージにいたしました。

第一幕

透明の闇。
しゅるしゅるしゅると風が走る。
ぐっさり闇を刳って三日月。
その三日月の中に蠢く裸身の男と女。
男は全身に刺青をしている。

女　……潮の満ちよる。ほりゃ、ようと耳ば澄ましてごろうじ。潮の満ちよる。あんたっ。
男　黙っとれ。ほてりの消ゆる。
女　満ちよるとよ、あんた。ほりゃ海のきよる、息つめて海のきよる、朝ばひっぱって海のきよる。あんたっ。

女の右手にきらっとカミソリが光る。

女　満ちるうちの、満ちとるまんまに。あんた殺しておくれ。うちの命、こんカミソリでぴゅうって殺しておくれ。

男　わりゃ、どぎゃんつらあしとる、いま。

女　あふれとる。うちの命の満ちて、ほてって、あふれとるとよ、あんたっ。よかあ、うちば切ってっ、あんたっ、こんカミソリでっ、ぴゅうって血いの。透明か桃色のうちの血いの、飛ぶとよ。あんたっ、こん闇に。

男　和子。

女　うちば切りきぞうでっ、あんたっ。

女、和子、闇に立つ。その裸身を包むように、潮が満つ、波、荒い息づかいの男。

女　はよう、潮の満ちよる、はようっ。

ぴかっとカミソリが闇を切った。

海のイメージの中でそれらは消えた。

ぐんっと太陽が昇った。松浦は海の中にある。びゅうびゅうと吹く風の中に骨身晒して廃坑がある。その廃坑を背景にして人がゴーストタウンとうわさする朽ちた炭住の大納屋が

並ぶ。上半身裸に菜っ葉ズボンの祝賀二郎散弾銃を撃った。逃げようとしていた肥前高校図工教師大徳守先生へたっと座り込んだ。

祝賀二郎　まっとおろうでんないっ、ずんだれっ。こかあゴーストタウンぞっ、あん廃坑にゃまあだ人の埋まっとっとぞ。ほりゃおらびないっ、おろうでんないっち、おらべっ。

大徳　おてつけっ、おてつきない、祝賀しゃん。祝賀二郎やん。

祝賀二郎　（散弾銃ガチャといわせて）こりゃ散弾銃ぜ、つやつやしとる、のう。ほっぽほうらいドンパチやりゃのう、ぬしの命のいっちょふたつあ、あっちゃこっちゃてんでばらばらになっとぞ。ぬしゃてんでんばらばらになった命ばかき集めてあん世でうろつきさるくとなっ。よっ、大徳。

大徳　そぎゃんに、ぽんぽんぽんぽん。よしっ、よか、やりまっしょやりまっしょうだい。

祝賀二郎　よかっ、よかよか。さあ、やんない。どうせよごれぞ、おらあ。のう、ぴっぴっぴっておいの背中に墨い入れない、ほりゃ。

大徳　ばって、いかな図工の教師のおいでん、入れ墨は、ちょこっと。

祝賀二郎　こりゃ散弾銃ぞっ。

大徳　（あわてて）知っとるってばっ。

祝賀二郎　よかなっ。元禄風にみごとに仕上げないっ。ほりゃ、こん両腕ば八の字型に拝むごと

おなごの裸ばっ。和子ねえちゃんのごたるおなごの裸ばっ。そん元緑衣装のおなごにぞ。ぐぐぐぐうっとそそりいきりたって青筋のどくどくぴちぴちしとるおいのごたる男のチンポのぞ、こうごつごつして、こがんして。（両手でそれらしくやって）んにゃ、こいじゃ迫力のたらん、よか、ちょこっとデフォルメしない。そいがぞ、よかなっ、おなごの濡れてぬるぬるしてじゅうたあってしとるぐじゅぐじゅにぞ。いざっいざざっちゅうてっ。互は互ば両手両足でしっかと絡ませて、おおっぞくぞくする、おいと和子ねえちゃんの、おう、ぞくぞくする。のう、よかなっ、スーパーリアリズムでやんないっ。ほりゃやんないって。

大徳　（ため息をついて）おわったのう、今日で。

祝賀二郎　なんのっ。

大徳　おいの、もろもろの。

祝賀二郎　なあし。

大徳　（流石にむっとして）おりゃ教育者ぞっ。

祝賀二郎　曲りなりにものう。

大徳　そいがぞ、なあしよごれのよごれになる片棒ばっ。

祝賀二郎　（大徳の耳元で大声で）散弾銃のばんっ。

大徳　（驚いて）わっ、ひったまがる。魂のひったまがってちぢこむやっかあっ。

祝賀二郎　おいもかたぎは殺しとうなかっ。

大徳　またあつやつくる。よかな祝賀やん、入れ墨は消えんとよ、一生。
祝賀二郎　ぐじえるなっ。よかやっかあ、消えたら毎朝かかなあならん。おっ、ぬしゃ毎朝通う
か、こけえ、自転車で。
大徳　んにゃっ、めっそうなっ。
祝賀二郎　学校退職して、弁当持って、こけえ通学すっか、わりゃ。よっ、青い山脈歌うて。
大徳　意味のちがうじゃろが、意味の。
祝賀二郎　ひっちゃぐらしっ、ついでに右の腕にゃ御意見無用って書いとけっ。
大徳　あんの、そりゃの、ぬしの青春、ぎしぎしにの、抑圧された青春ちゃよう知っとる。たし
かに日本の政治は悪い。ばっての。
祝賀二郎　やぐらしっ。ぬしゃなあんか会話はぐらかしはぐらかして、そいばすっことで、こん
状況からの脱出ば試みよるのう。
大徳　めっそうな。
祝賀二郎　顔にかいちゃる。
大徳　なんてっ。（ごしごし顔をぬぐって）おちょくりよっちゃろ。
祝賀二郎　おちょくりよっとよ。
大徳　おちょくらんでよ、もう。
祝賀二郎　悪党のう、わりゃ。

大徳　処世術じゃろが。こりゃ、いやいやばって、大人になりつつあった時に覚えたとじゃけん。
祝賀二郎　時間のなかっ、決闘ぜっ。神原組と決闘ぜっ。はようせろっ、わりゃしばき殺しちゃるぞっ。
大徳　（逃げて）おてつけってば、もう、暴力ば否定でくる時代のはようこんかにゃ、もう。
祝賀二郎　（散弾銃でおどして）うだうだうだうだようさえずるのう。さあ、やんないっ、ほりゃっ。

祝賀二郎そこいらに寝っ転がる。大徳カバンから絵筆を出し、しぶしぶ祝賀二郎の背中を眺める。

祝賀二郎　（気持よく）のどかのう。
大徳　（むっとして）どこがっ。
祝賀二郎　（かっとして）なんてっ。
大徳　（飛び上って）ありゃ、でけんっ、おいの右ん手のいやいやしよる。でけん、いかなこて、こりゃ今日は、んにゃっ、ほりゃ、のう、いやいやしよる。のっ、のっ。
祝賀二郎　……。
大徳　（あきらめた）やります。やりまっしょ、いやいやばって、大人ならばいやいやながらも

やりまっしょ。（背中を睨んで）ううむ、んにゃこりゃ、ううむ、やめたっ、今日はスランプ。

祝賀二郎　（怒った）わりゃ殺しちゃる。遺言ばいえっ、電文で遺言ばいえっ。

大徳　ち、ちょこっと祝賀やんっ、芸術家とスランプはっ。

祝賀二郎　芸術家のカバンひっさげて学校いっか。芸術家のネクタイすっか。芸術家はサングラスして長髪ばさばさひっきゃあて、一日大酒ひっかっぶってあびるとぜ。よっ、わりゃ殺しちゃる、殺してあん廃坑にさかさ吊りにして風にこまかしわしわのちぢこまっとるチンポぶらぶらさしちゃる。みっつ数ゆるあいだに遺言ばいえっ。ウナデンで遺言ばいえっ、ほりゃいちにいさんっ。

大徳　（あわてて）やりますっ。おい芸術家やめて職人になりますっ。さあやりまっしょ。なあ祝賀やん、そん背中にぱあっとこぎゃんしとる枕絵ばっ。のっ、のって、そぎゃんにぽんぽんぽんぽんテンポアップせんっちゃ、のっ。

祝賀二郎　やぐらしっ、ひっちゃぐらしっ。ぎりぎりいっぴゃあここで生きとっとぞ、おりゃ。こんゴーストタウンの解体業の祝賀二郎、生ぬるかテンポじゃ生きとらんっ。

大徳　（つい）時間のなかっ。

祝賀二郎　（つい）おうよっ、時間のなかっ。こん戦争びしっと決着決めちゃるけんっ。なんかわりゃ、おちょくっとかっ。

大徳　んにゃ、んにゃんにゃ。

祝賀二郎　ええいっぐじえるなっ、くすぐんな、こそばゆか。はよせろっ。
大徳　ないっ。

大徳あわてて絵筆をにぎると、祝賀二郎の背中を睨む。

祝賀二郎　おなごは和子ねえちゃん、男はおいぞ。よかなっ、スーパーリアリズム、よかなっ。
大徳　ないっ。
祝賀二郎　よかなっ、くれぐれも、くれぐれもぞ、チンポは大胆にびびいんとデフォルメせろ。
　くれぐれもぞ。
大徳　ないっ。
祝賀二郎　カラフルにやれっ、カラフルにっ。よかぞう、佐世保のトルコ風呂にいっちゃるけん。
　トルコ嬢なあ背中のおいのチンポに興奮してむしゃぶりつくじゃろっ、のう。
大徳　誇大広告の問題にならにゃよかばって。
祝賀二郎　嫉くな、ずんだれっ。（思い出し笑いである）。
大徳　いやしか笑いっ。
祝賀二郎　嫉くなって、おいがすんだらぬしにも彫っちゃろか、のっ。
大徳　よかっ。

祝賀二郎　彫っちゃる、抽象画ば。
大徳　よかです。
祝賀二郎　あっ、わりゃデフォルメって、わりゃよもやまさか、ピカソのごと、わりゃ。
大徳　おいファンじゃけん、ピカソの。わかってもわからんでも。
祝賀二郎　こんだぼがあ、ピカソんごたる入れ墨ばしてんない。おりゃ、おいの背中まるっきし人生ばおちょくって生きとるごたるやっか。こぎゃんしとるばって、ニヒリストぞ、おりゃ。やれっちょろがっ。
大徳　やりよるやっかあ、もう、ようがなるニヒリスト。
祝賀二郎　こりゃ、こそばゆかっ、こりゃっ。なんななんなそりゃ、筆のしぶしぶしぶしぶしぶっちゅうて動きよるやっか。まっとハツラツと動かさんか、青春じゃろがぬしゃ、それなりに。
大徳　（泣いて）こぎゃんに抑圧されて、ハツラツとせろっていうたっちゃ、おどされておいのハツラツのびくびくしとる。
祝賀二郎　こりゃぴちゃぴちゃ涙てろ涎てろで背中のキャンパスばびちゃびちゃすんなっ。笑えよ、笑えっちょろがっ。
大徳　泣きよるとに。
祝賀二郎　笑えっち、わりゃ演劇部の顧問もしとるっちゃろが。
大徳　あんましぞ、あんまりぞ。おりゃこぎゃんことにゃむかんへアースタイルばしとっとに（泣

くのである）。

祝賀二郎　泣くなって、時間のなかっ。はようせろっ（腹巻きから針を出して）ほりゃ。

大徳　なんな、こりゃ。

祝賀二郎　そいでぷちぷち彫れっ。

大徳　木綿針やっか、こりゃ。

祝賀二郎　木綿針よ、おばばの、おかしかな。

大徳　ばってっ。

祝賀二郎　やれっ、根性でやれっ。ほりゃ時間のなかっ。

大徳　どぎゃんとっから発想すっとこぎゃんになるとな。木綿針でっ、おっとろしか。ひったまがる、木綿針で。（泣く）。

祝賀二郎　泣くなって。（腹巻きから彫刻刀を出して）ほりゃ彫刻刀。

大徳　彫刻刀っ。

祝賀二郎　よう切るるぞう、そいとこいで工夫してやれ、カラフルに、よかなっ、ほりゃ墨汁。よっしゃ、まかせた。

大徳　あっさり、まあ、あっさりした性格のう、ぬしゃ。しみじみ思うよ、おりゃ。

祝賀二郎　ぐじえるなっちょろがっ。時間のなかっ。木綿針と彫刻刀でおいの背中彫って彫りまくれっ。こん解体の祝賀二郎、わあが身体も解体すっとぜっ。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。
あわてて散弾銃を構える祝賀二郎。

祝賀二郎　ほたえなっ風。解体されて、ほたくりいっちょかれてほたえなっ風。風なら風んごと風に吹かれて黙っとかんかっ。撃つぞっ、わりゃ。はあて、風はどこば撃てば死ぬっちゃろかい。

風の中から流れの捨吉が走り込んだ。
右手に風呂敷包み、左手には手紙を高々と……ぴしっと風が捨吉を刺した。

捨吉　あいたっ、んにゃ風のぴしって。今日の風生きとるごとくに、よう祝賀しゃん、どうなあんばいはっ。

祝賀二郎　あんばい悪かっ。

捨吉　なあし。

祝賀二郎　（大徳を殴って）こんだほがあっ。

大徳　（泣いて）ぼくは暴力を否定する、強くっ。

祝賀二郎　（また大徳を殴って）なんてっ。
大徳　（また泣いて）否定しとっとに、するっちゃからあ。
捨吉　どぎゃんしたと、先生。
大徳　捨吉くんっ、ぽくは、ぼくは拉致されているのです。
捨吉　（かまわず）よかあ天気のう、のう。おういちゅうとあんつううんって音のする空のてっぺんずううっとむこうからおううういって声の聴こえてくるごたる。明日はよかあくんちになっぞ、こりゃ。青か空気ふるわせて、でんでこでんでこ太鼓の響いて鳴りわたって、あん海にゃ大漁旗のはためいて、御神酒に酔うた神社の境内にゃずらりべったりよかあにおいさせて屋台のなろうで、のう。サーカスのきとっとぜ、サーカスの。市役所広場にテント張りよっぜっ。
大徳　（嬉々として）なんてっ、サーカスのや。わあ今夜興奮して寝つかんぞ、こりゃっ。
捨吉　なんてっ。
大徳　ありゃ、んにゃ、立場ばころっと。んにゃ、こっけんころりん忘れとった。
捨吉　（手紙を祝賀二郎に見せて）ほりゃ。
祝賀二郎　おっ、倭子からにゃっ。
捨吉　おうよおうよっ。
祝賀二郎　よっしゃ、よっしゃ。読うでんないっ、読うでんないやっ。
捨吉　よかなっ。

祝賀二郎　よかよかっ。
大徳　倭子って、祝賀しゃんの妹のや、あん別嬪のやっ。
捨吉　おうよ関西で、のう。昼間工場、夜は夜学、のう。
祝賀二郎　（自慢である）まっ、やりよるごたる、ぼちぼちじゃろ。
大徳　ぽちゃぽちゃして、色の白うしてのう、ありゃよか、よかぞうありゃ。のう、こう、のう。
祝賀二郎　（大徳を殴って）わりゃっ。
大徳　（泣いて）なしてえ。
祝賀二郎　わりゃなんば想像したっ、いま倭子のなんば想像したなっ。
大徳　（泣いて）よかろうがしたっちゃ、観念操作ぐらい。
祝賀二郎　ひっちゃぐらしっ、倭子のよごるる。まっと自己規制して生きんかっ、ずんだれっ。
　あっ、まあた想像しよるっ。
大徳　（あわてて）んにゃ、からっぽ。
祝賀二郎　んにゃ、しよる。ぬしゃ。ほりゃ倭子のなんば。あっ、ありば、ぬしゃ、ぬしゃ、そ
　ぎゃん想像ばっ。いやらしかのう、しよる、ぬしゃしよる。
大徳　しょらんってばっ。
祝賀二郎　しよるやっかっ、しよらんかっ、しよらんの、すんなよっ、よかのっ。
大徳　せんばいかんごともっていくっちゃから。

祝賀二郎　したなあっ。
大徳　しとらんっ。
祝賀二郎　なあんか、しよるごたるとばってにゃ。
捨吉　（手紙を読んで）お兄ちゃんお元気ですか。
祝賀二郎　おう、ぴんぴんよっ。
捨吉　（手紙を読んで）先日のお兄ちゃんの手紙で解体業は絶対やめんと書いてありましたが、
　どうしてそんなにゴーストタウンの解体にこだわるのか、倭子にはわかりません。
祝賀二郎　（遠くを観て）おなごにゃわからんと。
捨吉　（手紙を読んで）お父ちゃんがマイト事故で死んでしもうて、お母ちゃんなあどっかに逃
　げてしもうて、うちとお兄ちゃんとたった二人になってしもうて、寒うしてぶるぶるふるえた
　夜のこたあうちも忘れとらんと、忘れとらんとよお兄ちゃん。……まっと読むな。
祝賀二郎　読めっ。
捨吉　……。（手紙を読んで）ばって大人になったじゃなかね、ちゃんと生きとるじゃなかね。
　もうよかじゃろが、なあし松浦にこだわるとね。松浦のことは、松浦の人が。おなごにゃわか
　らんとってつぶやくお兄ちゃんの目にみゆるごたる。とりあえず五千円同封します。
祝賀二郎　（五千円をさっと取って）一万ちゆうたとに、もう。
捨吉　（手紙を読んで）今度また会社を変ります、新しい住所はまた知らせます。それからお兄

ちゃんは和子さんが好きなのは知っとるけど、あの人は松浦の人でいい家の人ですし、年もちがうでしょ。

祝賀二郎　やぐらしっ、ほっとけっ。

捨吉　（手紙を読んで）捨吉さんはお元気ですか。

祝賀二郎　なんてっ。

捨吉　（手紙を読んで）あの人はいい人です。捨吉さんに会いたい、とっても。

祝賀二郎　なんてなっ、そぎゃんことの書いてあっとなっ。

捨吉　んにゃ、アドリブ。

祝賀二郎　わりゃ。

捨吉　（逃げて）ぞうたん、ぞうたんたいっ。

祝賀二郎　しばき殺すぞ、わりゃ。（大徳へ）あっ、またいやらしか想像したなっ、わりゃっ。

大徳　んにゃ、ちゃんと着物着とるけんで、大丈夫。着物着とる想像けんで、大丈夫ってばっ。

祝賀二郎　着とるか、ちゃんと。

大徳　着とるってば、ちゃんとセーラー服ばっ。

祝賀二郎　なんてっ、セーラー服ばかっ。ほう、なら、よか、想像しただけでかわいか、のっ。

大徳　上半身は。

祝賀二郎　なんてっ、上半身はセーラー服、下半身はよっ。

大徳　なしっ、なんもなしっ、べろっ。
祝賀二郎　（想像して）わりゃ、なんちゅう想像ばっ。
捨吉　（大徳を殴って）こんだぼっ。そぎゃん想像ばっ、上半身セーラー服着て下半身びゃあっ、白か太股のびゃあ、してびちゃびちゃ。わあ想像しただけで。わあっ、そぎゃん想像ばっ、想像ば絶する想像ば。わりゃ、わあっ、わあっ。
祝賀二郎　（捨吉を殴って）そぎゃん想像すんなっちょろが。おいまで想像するやっかあっ。
捨吉　なんてっ、そりゃ近親相姦っ。わあ、ぬしと倭子で、下半身びちゃあっの近親相姦っ。とっつくんずびちゃぐじゃぐじゃ、わあっ想像しただけで、わあっ。
大徳　わあ、また想像の、ぐんぐん飛躍するっ、わっわあっ。
祝賀二郎　（ついに散弾銃を撃った）やぐらしっ。どこまで想像すっつもりか、だぼっ。抑圧されとるのう、ぬしどまあ。想像は思春期までぞ、ずんだれっ、こりゃ、捨吉っ、ぽけっとすんなっ。
捨吉　ちえっ、せっかくの想像の散弾銃にひったまがって、ちりぢり。ちえ。
祝賀二郎　してっ、捨吉、和子ねえちゃんなあ。
捨吉　うわさじゃのう。
祝賀二郎　じらすなって、時間のなかっ。なぐり込みぜっ。
捨吉　うわさじゃ。のう、うわさっちゃなあしぼそぼそっとしとっとにぱあっとひろがるっちゃ

ろかい。

祝賀二郎　ええいっ時間のなかっ、して。

捨吉　うわさじゃある。あるばって、たしかにそぎゃんうわさのあるっ。

祝賀二郎　じゃろ、じゃろがや、して。

捨吉　ここんとけのう。（首を指で切って）ざっくりあるげなっ。

祝賀二郎　やっぱし。

捨吉　切り苛んだ切り口の、ざっくり。

祝賀二郎　カミソリかっ。

捨吉　カミソリ。

祝賀二郎　（散弾銃を撃って）ええいっ、どぎゃんしちゃろ、どぎゃんしちゃろかいっ。倭子、ぬしゃ兄ちゃんのこぎゃんにまで。（捨吉へ銃を向けて）わりゃあんましええくらかげんなすらごとぬかすと撃ち殺すぞ、わりゃ。

捨吉　お、おりゃ真実のみばっ。

祝賀二郎　友情ちゅうもんのあろうがや、友情ちゅうもんのっ。よっ、男ならばぞ。

捨吉　そ、そいけん。

祝賀二郎　せからしっ、ああ黙っとれっ。こぎゃんにまで純なおいが、胸ぎしぎし掻きむしって悩みよっとぞ。ぬしに友情あっとなら、ちょびっとでんあっとなら。だいたいがぬしゃ質屋の

息子じゃけんっ。

捨吉　なんなっ、なんなそりゃ。うちの商売と友情の、どこでどぎゃんしてっ。

祝賀二郎　わりゃだまくらかしたろがやっ。おいの腕時計、たったの五千円、たったの五千円じゃったろがっ。買うた時でん五千円したとぜ、ありゃ。

捨吉　そうゆうとこがおりゃ好きよ、ぬしの。

祝賀二郎　ぐらぐらするっ。ええいっぐらぐらするっ、してっ。

捨吉　なんがっ。

祝賀二郎　決まりきっとるっ、和子ねえちゃんなあ、どこでどぎゃんしとっとなっ。

捨吉　さあのう。（よたっている）ふてとるっちゃから、おらあ。

祝賀二郎　そぎゃんにぎんぎんによたるなって、はぶつるなって。

捨吉　どうせださい男じゃけん、おらあ。

大徳　ださいってな。

捨吉　おうよ、ださかとよ、おらあ。

大徳　なつかしか、ダサイズムなっ。

祝賀二郎　こりゃ捨吉。のう流れの捨吉よい。質流れの捨吉ちゃん。次男坊根性の捨吉ちゃん。

捨吉　むかあっとするっ。そいで機嫌とりよるつもりなっ。ぬしに機嫌とらるっとむかむかする。

不機嫌になるっ。（大徳を殴って）にたにたしとらんでしゃべくれ。

大徳　（泣いて）なしてえ。
捨吉　やぐらし、弱い者いじめは順ぐりぞ。ああ、なんかちょこっとすかっとした。
大徳　ぐらぐらする、ぐらぐらする。こん怒りば、くそう、ぐらいすんのう。よっしゃ、明日サーカスば観た生徒ばぼたうちしちゃる。暴力は否定しとるけんで愛の鞭で、くそうっ、神社のうらでぼたうちしちゃるっ。体育の先生といっしょに。
祝賀二郎　（捨吉へ）して、してして。ええいっ時間のなかっ。ぎしぎしぎしぎし歯のかゆかっ、してっ。
捨吉　そいしこよ。
祝賀二郎　そいしこっ、そいしこっちゃなんなっ。心中かっ、やっぱ心中じゃったとか。
捨吉　（小声で）あんの。
祝賀二郎　なんなっ。
捨吉　（小声で）心中する男とおなごなの。
祝賀二郎　なんやっ。
捨吉　（小声で）やっとってぜ。死ぬ気で、ほっぽほうらいやっとってぜ。死んでもよかっちゅうぐらいやっとってぜ。
祝賀二郎　なんばっ。
捨吉　（小声で）あいばあ。

祝賀二郎　なんばってっ。
捨吉　（小声で）ぐじゅぐじゅばあ。
大徳　（小声で）ごくっ、ごめん、喉のごくっていうた。ごめん、ごめんね、すっかりごめん。
　なんばすっとって。えっ。
祝賀二郎　（小声で）黙っとれっ、なんなそんぎらぎらした目はっ。あっ、またあ、ぬしゃ想像
　しよるな、ありゃつい小声になってしもた。（大声で）すっかあ、和子ねえちゃんの、ぐじゅ
　ぐじゅばあ、すっかあ。（大徳へ）のう。
大徳　さあ。
祝賀二郎　わりゃまた想像しよるなっ、このうっ。（散弾銃を構えて）ぬしん命どこへないと飛
　んでいきないっ、かまえっ銃っ。
大徳　（あわてて）いま死んだら、サーカスのっ。
祝賀二郎　そう、サーカスの想像ばしちょれ。
捨吉　惚れて惚れきっとるとのう、ぬしゃ。
祝賀二郎　（叫ぶ）雪の降っとったとよ、雪の。想像せろっ、大徳。しょぼしょぼ雨のごとみぞ
　れて雪の降りよった。親父のごつか手えにひっ連れられてこん松浦の駅に着いた日にゃしょぼ
　しょぼ雪の降りよったとよ。暗ろうして、えすうして、海にゃもやの立籠めて、墨絵のごたる
　海じゃった。親父の目ん玉からあ黒か炎のゆうらゆうらゆれて、じいっとこんゴーストタウン

ば見よる、親父の目ん玉のゴーストタウンからにゃもうがらがらくずるる音のしとったよ。おりゃふるえて寒うして、ずぐっしょにずぶ濡れとるおいのいがぐり頭に、ハンカチの、白かにおいのする白かハンカチの、ふわあって、笑うて。白か人の白うに笑うて……闇に消えたとよ。倭子はおいの背えでぐっすり寝こうで。ええいっ、ぐらぐらすんのう、なあしおりゃこぎゃんに純情かとかにゃ。まるで少年のごたる、純文学の女流作家の少年のごたる。のっ、あっ笑ろたな、捨吉。

捨吉　んにゃ、んにゃんにゃ。

祝賀二郎　んにゃ、笑ろとる、ぬしゃどっかで笑ろとる、大衆文学で笑ろとる。ぬしゃ質屋の次男坊じゃけん。わあ、ぬるぬるしたうたがわしそうな目。ぬしゃ本質的に質屋の次男坊じゃけんっ。

捨吉　うたごうてかからんば商売にゃならんとぜ、質屋と刑事はっ。本質的にっ。

祝賀二郎　ええいっ時間のなかっ。どいもこいもっ。こりゃ大徳っはよう墨ば彫れっ。こりゃっ、よかなっ、捨吉、今日こそ結着つけちゃるけんのうっ。こんゴーストタウンの解体なあ、ひんよごまった釘一本こん祝賀二郎のもんぜえ。神原組のよごれにゃ指一本ふれさせんぜえ。彫れっ、はよう彫れっ。どまぐれになぐり込んじゃる。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。

祝賀二郎　（散弾銃を撃って）うらめしかなっ、風。ようごろごろごろごろ吹くやっかあ風よい。わりゃだいの息なっ、だいの声なっ、だいの命なっ。わりゃ死んだ親父なっ、風っ。こん解体業の祝賀二郎にこんゴーストタウンば解体さるっとのそぎゃんにうらめしかとなっ、風。うらめしかなら姿ば見せないっ。こん祝賀二郎と刺し合いないっ。解体しちゃる。なんもかんもこんおいが解体しちゃる。こんゴーストタウンなんもかんも風にしちゃる。して太陽にさらしちゃる、だいかっ、ぬしゃ。

風の中を巡査の保造とゴーストタウンのおばば負ぶった警官の制服の末永素好が走る。

素好　ちょ、ちょこっとタイム。んにゃ腰のぐらぐら、ちょこっとタイム。

保造　走らんか、ずんだれっ。そいでもぬしゃ公僕かひょんきん。よかかっ、警官っちゃいつでん走っとらんばいかんとぞっ。ふりにしてもっ。そいでのうても世間がうるさいっ。そこどけえ、今日の松浦は事件がいっぱい。三郎の、あん悪の限りを尽し三郎の、全国指名手配の三郎のっ、帰あってきとるっていうじゃなかなっ。そこどけえっ、こりゃ素好っ、走れっ、こんだぼハゼっ。

素好　（肩で荒く息をして）くそっ、生れて始めて人に命令でくるもんせん嬉々として、くそっ。おっ祝賀しゃん、いよい神原組になぐり込みなっ。

祝賀二郎　おうよ、ああてろこうてろ、おいの解体にいちゃもんばつけくさるっ。
保造　こりゃ、とまっとるときゃ足踏みしとれっ、よっしゃ点呼っ。
素好　いちっ。
保造　（嬉々として）くう、じいいんってするっ。おいの命令で人の動くっ。じいいんっとする
っ、点呼っ。
素好　いちっ。
保造　よかあっ。
捨吉　なんなっ、素好っ。
素好　アルバイト、警官のっ。
捨吉　アルバイト、警官のっ。
大徳　アルバイト、警官のっ。学生がっ、アルバイト、警官のっ、めっそうなっ。
素好　今日と明日おくんちでゴーストタウンの解体休みじゃろが。しょんなか、明日のサーカス
の銭、警官のアルバイト、警官の下請け。んにゃこんおばばの、んにゃおんたさあ、こまかお
ばばの身体の、んにゃ、おんたさあ。
祝賀二郎　素好っ。
素好　おっ祝賀やん、いよいよなっ。やるっちゃろっ。
祝賀二郎　おうよっ、神原組と結着つけちゃるっ。こん松浦の解体業、おりゃ、おりでやるっち

やから。

捨吉　なんなっ、ゴーストタウンのおばばやっかあ。死んどるとなっ。

素好　死んどらんっ。死んだふりしとる。のうおばばよいっ。

おばば　……ない。

素好　のっ。

保造　走れっ、走らんかっ、素好っ。ここでストップしてんない、ろくなこたあなかっ。ああっこん足いつん間にかストップしとる。ありゃこん胸どっかでここのフンイキにわくわくしよる。もうなあしおりゃこぎゃんに好奇心の旺盛かとかにゃ。独身のせいかにゃ、やっぱ。

大徳　保やんっ、助けてっ。おっとろしか、なぐり込みすっとってよっ、刺青してなぐり込みすっとってよ。こいどんば監獄にぶち込んでおくれっ。百目ローソクぽたぽたして、竹刀でいがいがして、めためたに拷問しておくれっ。のっ、法治国家日本のっ。

祝賀二郎　ほたゆんなっ、だぼっ。こんゴーストタウンなあ超法規ぞ。ずんだれがあ。

保造　ほりゃ、ほりゃほりゃ、フンイキにわくわくしよる。うかれよる。でけんっ、んにゃいそがしゅうしていそがしゅうして。さあ走っぞう、素好っ、サーカスは近いっ。

素好　えらそうに、いきのぼすんなっ、ずんだれっ。しまいにゃくびり殺すぞ、わりゃ。ぬしば殺したっちゃ新聞にゃ少年Ａってしか載らんっちゃからっ。未成年のうちに殺しちゃろか、わりゃ。

保造　あっ、もうここのフンイキに酔いくろうて。わりゃ、上官ば侮辱すっとか、わりゃ。くそう独身っておもてあんましなむんなよっ。わりゃ、アルバイトのギャラ払わんぞ。わりゃ、サーカスはどぎゃんする、サーカスはっ。

保造　したら、おとなしゅうしないっ。

素好　くそう、こん十七年まっと計画的に生きとればのう。よっしゃ計画的に生きっぞおりゃ、来年の正月からはっ。

おばば　……まぶしか。

素好　なんてなっ。

おばば　……今日の、まぶしか。

保造　よか天気やっかあ、おばばよいっ。見てんない、空のてっぺんどまん中に、でええんと太陽のいっちょ。ほりゃ、まんじゅしゃげのごと、ぽたぽた赤っかしずくのしたたるごと。今日も死なんとな、おばばよい。

おばば　……さあ。

祝賀二郎　どぎゃんしたとなっ。

保造　すうぐずらかっとよ、病院からっ。

祝賀二郎　またなっ。

保造　ごそごそはいずってでんずらかるっちゃから、命根性きたなかおばばよっ。

おばば　……一人になってしもうて。
祝賀二郎　おばばっ、ぬしの棲んどるゴーストタウンなあのう、解体すっとぜ。解体。よいとまけえっがらがらがらあっ。そいでちゃか、なあんものうなっとぜっ。おばばよいっ、病院でおとなしゅうしときないっ、のう。
捨吉　そうぞ、おばば。死ぬまでじいっと白か壁のしみば見ときないっ、のう。
おばば　（遠くを観て）ここ、だあいもおらんごとなってしもうて、一人になってしもうて。ころっころよう死んでしもうて。……なあしうちだけ死なんっちゃろかい、なあし。一人じゃさびしゅうなかばって、いっぴゃあの人の中に一人おっと、さびしか。
捨吉　ままっ、すぐ死ぬけん、のっ、すぐ死ぬけんで、じっとしときないっ。のっ。（素好へ）こぎゃんなぐさめで、なぐさめになっとかにゃ。
素好　さあのう。
おばば　（ほっほっと笑って）あいたこりしょ、どっこいしょ。ありゃいつじゃったきゃあ、ほりゃ知っとるじゃろがや、ありゃ。
捨吉　なんや、んっ。
おばば　知っとるじゃろがや、あのう。
捨吉　はて、なんじゃろかい。
おばば　（遠くを観て）たしか大正。んにゃ明治。

捨吉　知らん、知らんっ。
おばば　そうなあ知っとるなあ。そう、そうじゃったあ、またあそぎゃんにはずかしかことばあ、いやあ顔のほてる、あこうなる。そうじゃったあ、ないっ、ないっ。
捨吉　だいと話しよっとな、おばばよい。
おばば　……風と。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。

おばば　ああっ、じいいんとする、芯までじいいんとするよう。
祝賀二郎　おばばっ、風にでん帰ゃありたかとこのあるっちゃろがっ。なあし風になってもこぎゃんとこばうろつきさるくとなっ、おばばっ。
おばば　……まぶしか、今日の。
捨吉　こんぐらいゆるゆるずううっと生きとっとの、命のゴムのバカになっとるけんで、どこまで生きればよかとにいろ、どこで死ねばよかとにいろわからんとよ。わあがでわが命のようわからんとよ。
素好　死にたかてろ生きたかてろにゃ思わんっちゃろかい。
捨吉　さあのう。死んだごと生きとるっちゃから、生きたごと死んどるとかもしれんのう。

素好　殺したっちゃ死なんっちゃろかい。
捨吉　死なんじゃろ、こうなっと。
素好　ふうっと風になるっちゃなかろかい、こんおばば、こんまま、ふうっと。
祝賀二郎　（散弾銃を撃って）そうはさすっかあ。こんゴーストタウンのなんもかんもがふうっと風にってにゃ、そうはさすっかあ。がらがら音させてくずしちゃる。ぎりぎりいっぴゃあここでこぎゃんして生きとるおいがあ、がらがら音さしてくずしちゃる。おいの右ん手えで、おいのここばあ。くずしてくずしこうで、死んで風になっとるなんもかんもば、あん太陽にさらしちゃるっ。たしかにここのあったってさらしちゃる。
捨吉　ようきばるのう。
祝賀二郎　（遠くへ）こっからどけえずらかれってなっ、倭子。ずらかっと一生がらがらくずるる音のすっとぜ、倭子。くずるる音におびゆるとぜ倭子。そいからまたあずらかって、倭子、倭子ようい。聞こえんじゃろのう。
おばば　夜中、風のしいいんってしとるときに、ぼそっといいない。したら聞こゆる。
祝賀二郎　（散弾銃を撃って）くそうっ、だいもかいもずらかってしもてえっ。（遠くへ）ぬしどまあ、どけえずらかったあぬしどまあ、どこでどぎゃんしよる、ぬしどまあ。
保造　どこでどうどもしよるとにいろのう。だいもかいも。
祝賀二郎　ずらかりの味ば知った奴の、どこでどうしたっちゃどうなるもんじゃなかっ、おりゃ

っ。

保造　（つい）ぬしゃ、ずらからんとなっ。

祝賀二郎　わりゃっ。

保造　（びくっとした）あっ、サーカス小屋の、もろもろのっ。おばばっ、ちょこっとマラソンしてくっけんで、のっ、じっとしときないっ、のっ。風においでおいでされて、ふらふらすっとじゃなかですばい。したら素好上下の関係っ。

祝賀二郎　保造っ。じゃまくさかとかっ。こん松浦じゃもうおりゃじゃまくさかとかっ、よっ。

保造　ん、んにゃ。

祝賀二郎　よかときゃよかごといいよって、がらがらくずれたら、もうぽいなっ。保造。

保造　そ、そぎゃんっ。

祝賀二郎　（全員を睨んで）ずらからんぜ、おらあ、ずらからんぜ、保造。ぎりぎりいっぴゃあここで生きちゃる。こけえしっかと根っこ張っちゃる。ええいっ、時間のなか。なぐり込んじゃるっ、おいの命時間のなかっ。おいの命の赤こうどっくんどっくんしとるうちに、びしっと松浦になぐり込んで命の根っこ張っちゃるけんのっ。

保造　おてつけっ、祝賀やんっ、おてつきないっ。

祝賀二郎　解体しちゃる。なんもかんも解体しちゃる。ほっぽほうらい風にして太陽にさらして、おいの命の生まるっとぜっ。おりゃ松浦の祝賀二郎ぜえ、文句あっかあ、ぬしどまあっ。とん

ずらもせん、風にもならん。ここでこぎゃんして生きとるとぜえっ。

保造　素好っ、ずらかれっ、命のあぶなかっ。

祝賀二郎散弾銃を撃つ。保造へたっと座り込む。

保造　ほうりゃこうなる。か、き、く、凶器準備集合罪。け、こっ、公務執行妨害。わ、ワイセツ物。ち、ち、素好っ、タッチッ。

素好　おいがや、ぬしゃっ。

保造　本日急病っ、あいたたたたっ。

素好　なんのいたかとなっ。

保造　人生のっ、あいたたたっ。

素好　こすかのう、ぬしゃっ。あんまし下請けばいじむんなっ。未成年ぞ、おりゃ。

祝賀二郎　ええいっ、時間のなかっ。こりゃ保造っ、和子ねえちゃんの心中の。

捨吉　時間のなかっ、ほりゃ。（風呂敷包み高々と）青少年名画観賞友の会の、ほりゃ８ミリとフィルム。

素好　なんてっ。

捨吉　今日流れた、めでたく。

素好　わあっ。
捨吉　いよいよぞっ。
素好　いよいよなっ。
祝賀二郎　（保造の胸倉をとって）だいなっ、心中の相手はっ、ようっ。こん散弾銃で撃ち殺し
　ちゃるっ、相手はだいかっ。
大徳　そりゃっ。
捨吉　なんなっ。
大徳　おいの８ミリやっかあっ。
捨吉　流れた、めでたく。
大徳　なんてっ。
捨吉　今日が期限、知らんかったとっ。
大徳　（泣く）ひどかっ、むごかっ、あんましぞ。駅前の月賦屋で、しぶる教頭先生保証人にし
　て、月賦の払いもまだとにより。
捨吉　じいいんとひたるこん優越感。質屋の醍醐味っ。
素好　（嬉々として）して、してして、カラーな、え、総天然色カラーなっ。
捨吉　んにゃ、ブルー。
素好　なんてっ。

捨吉　シロクロ。
素好　うひゃあ、ぬしゃ親友、このう親友っ。
捨吉　なんがっ。
素好　なんてっ。
捨吉　こりゃ成人映画じゃけんっ。
素好　またあ、おりゃ成人ぜ、肉体年齢はっ。
捨吉　んにゃ二千円、ぬしゃ二千円。
素好　なあしっ。
捨吉　学生割高。
素好　学生割高っ、割引きじゃろがっ。
捨吉　いらんこっぺ。
素好　ううずら憎っかのう。どこまでも質屋の次男坊のう、ぬしゃ。
祝賀二郎　（ぎりぎりと保造の胸倉を締めて）はようっ、ほりゃはよう、泡ぶくぶくしておちる　ぞっ、ぬしゃ。
保造　ひいっひいっ。
捨吉　（あわてて）あっ殺しよるっ、殺すなっ、殺すなって、祝賀しゃんっ。人殺すと殺人にな　っぞ、こりゃっ。

祝賀二郎　（もっと締めて）だぼうっ、人ば殺したぐらいで殺人にいっ。（はっと気づいて）なんてっ、したら殺人ばしたら人殺しになるやっかあ、いかんっ。（保造へ）死んだにゃ。

保造　（ぐったりと）死んどらんっ。んにゃ、死ぬかにゃあっておもた。んにゃ空気のうまさあ。生きとるう。

祝賀二郎　（捨吉と素好を殴って）わいどまあ（大徳を殴った）。

大徳　（泣いて）なしてえっ、すっこんすっこん、なしてえ。

祝賀二郎　ぐじえるなっ、ついでっ。こりや、捨吉っ。

捨吉　（びっくりして）な、なんなっ。

祝賀二郎　ありゃ、いつん春じゃったか。ぬしが集団就職で質流れのきちっとした詰め襟でっ、よっ。こん松浦ば飛びっちょすっときなんちゅうた、よっ。

捨吉　またあそいばあっ。

祝賀二郎　ハツラツとして、このう。祝賀しゃんっ、こんだちゃテレビで会おうでのうって、えらそうに。サインの稽古して、えらそうに。

捨吉　（ふてて）思春期じゃったけんでっ。

祝賀二郎　こんうすらトンピンっ。そいがなあしこけえおっとなっ。

捨吉　（むっとして）青春に挫折はつきものじゃろがっ。

祝賀二郎　ずんだれっ、たった三ケ月でひょこっとこけえツラだして、ぽく挫折しちゃった。な

んかありゃ、ずんだれっ。

捨吉　おいっ、おい、ようよ更生したとにっ。社会復帰したとにっ。（泣いて）餞別じゃろが、あん時の五百円の餞別にこだわっとるっちゃろが。いじむんなよっ、そぎゃんにっ。

祝賀二郎　（手紙を指さして）倭子ばみてんないっ、倭子ばっ。こりゃ、素好っ。

素好　なんなっ。

祝賀二郎　こんひょうろく玉っ。わいがそぎゃんしてバンバンってつっぱらるっとも、おいちゅう後光のおかげじゃろがやっ。のう。

素好　そぎゃんにはっきり、いわんちゃよかじゃろだいっ。

祝賀二郎　そんおいがぞっ。こぎゃんにぞっ、こぎゃんにぞっ、ぐらぐらかっかしてなぐり込みばっ、だいかっ。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。

風に吹かれ廃坑に女が立っている。良子である。

良子　んにゃあ、風のくすぐる。こそばゆさあ。ああ、うちのよごれてしもうた命ば、風の、ほうりゃやさしゅうに。……はずかしさあ。んにゃあ、ここでこぎゃんして目えばつむると、ほうりゃ風の、いざのうてくるる。忘れてしもうたいろんないろいろに、風の、いざのうてくる

る。

良子つぶやくように唄う。〝松浦の子守唄〟。

捨吉　良子っ。

捨吉　（倭子の手紙の続きを読む）あの人は松浦の人で、いい家の人ですし、年もちがうでしょ。……人間ってそれぞれ血のにおいのすっとよ。ここにもお兄ちゃんのごたる血のにおいのする人のいっぴゃあおらす。お兄ちゃん、うちの血のにおい、ここでも好かれんごたる。お兄ちゃん、お兄ちゃんの血のにおいそこで好かれとるですか。お兄ちゃんの血のにおいばえすがって、みんな黙っとっとよ。

祝賀二郎　どぎゃんしたっ。読んでんないっ。

捨吉　（手紙を読む）お兄ちゃんの青か冷えた血ばみんなえすがっとるだけ、そいだけ。お兄ちゃん、うちらの血あったこう静かになあし眠らんっちゃろかね、なあし。昨夜（ゆうべ）風呂屋でカミソリ踏んでうちの足のうらからどぶどぶ血の流れて、つくづくそうおもた。今日も寒か、うち。

祝賀二郎　（遠くへ）どぎゃんしたあっ、倭子っ。

素好　だいなっ、だいなっ、ありゃっ。

保造　良子っ、良子じゃなかなっ。

捨吉　（憑かれたように手紙を読む）お兄ちゃん、うちの命ささくるるごとして、えすか。笑ろ

てお兄ちゃん、こんなこと書いてもお兄ちゃんは遠かとに、遠かとにね、お兄ちゃん。兄妹でん大人になっと遠うなってしまうとね、お兄ちゃん。

祝賀二郎　なんか、あったっちゃろかいっ、なんかあったっちゃろかい、倭子にっ。えっ、捨吉っ。（遠くへ）倭子っ。

捨吉　（手紙を読む）今日変なかね、うち、そっちはもうおくんちじゃろ、太鼓の音の聞こゆるごたる。海はまあだあっとね、お兄ちゃん。また会社を変ります、すぐ新しい住所知らせますのでここには絶対に連絡しないで下さい。さいなら。

祝賀二郎　そいしこかっ、そいしこかあっ。ええいっ、もどかしかあっ。もどかしかのうっ。（手紙をばらまいて）ほうりゃ親父、倭子の手紙ぜっ。においかいでんないっ。なんのにおいのすんなっ。風になってひゅうらひゃあらうろつきさるきよっとならっ、こんにおいばかいでんないやあっ。親父、死んだぬしからあ、まあだ酒のにおいのしとっぜっ。

保造　良子のっ、悪の限りを尽し三郎の妹の、良子の、三郎ば追うごとに、帰あってきとる、なあし。

良子風の廃坑をゆっくりと降りる。

良子　（倭子の手紙を拾って読む）お兄ちゃんの青か冷えた血ばみんなえすがっとるだけ。お兄

ちゃん、うちらの血あったこう静かになあし眠らんっちゃろかね、か。（ふっと笑って）なあ
しじゃろかね、おばば。

おばば　……こんだちゃあなんに生まれてきゅうかにゃあって考えよったと。

良子　なんがよかと。

おばば　……はずかしか。

良子　はずかしかや。

おばば　（ほっほっと笑って）はずかしかあ。

良子　なあし。

おばば　うち、まあたうちに生まれたかにゃっ思いよったけんで、はずかしかあ。

良子　そうや、そぎゃんによかったとや。

おばば　よかあ一生じゃったあ。想い出しても顔のほつるごと、よかあ一生じゃったあ。

良子　なんのあったとね。

おばば　なんのあったとにいろ、忘れてしもて。ぼううっと酔うとったごと、酔うたごとして。

良子　（土を弄って）ここ、さらさらになってしもうたねえ。死んだ人の、血の骨の肉の、ほう
りゃこぎゃんにさらさらになってしもうて。

保造　良子っ、わりゃ良子っ。なあし帰ゃあってきたとなっ。

良子　ぴしって風の音のして、空気の青うにすき透うて秋になっと、あんボタ山にゃいっぴゃあ

まんじゅしゃげの咲いたとよ。赤う、ぽたぽたしずくのしたたるごと、死んだ人の血のごとに、いっぴゃあ。

保造　なあしなっ、良子っ。

良子　生みにっ。

保造　なんてっ。

良子　赤子ば生みに。あん廃坑で、赤子ば生みにっ。うちの生まれたあん廃坑で、うちの子ば生みに。ばたぐるうて、えすがって、ぎしぎし血いばうらんで死んでいくじゃろう、うちの子ば生みにっ。

保造　なあしっ。

良子　ああ、また腹へったあ。もう、うちの命に食らいついて離さんとよ、こん子。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。

良子　んにゃ、ここの風の、うまさあっ。うまかろう、あんたあ。

祝賀二郎　（散弾銃を撃って）倭子っ。こん松浦から風ばくろうてずらかったぬしがあ、こんおいから離れたがったぬしがあ、なんばおいに訴えよっとかあ。ぬしになんのありよっとなあ、倭子っ。遠うなってしもうたとなら、ならあ、ぬしゃぬしでやるしかなかとぞっ。なんのあり

よっとなあ、ぬしにいっ、兄ちゃんはこけえこぎゃんしてぎりぎりいっぴゃあ生きとっとぜっ、倭子っ。

捨吉　のう、祝賀しゃん。

祝賀二郎　なんないっ。

捨吉　倭子の手紙から男のにおいのせんじゃったな。

祝賀二郎　なんてっ。

捨吉　かすかに、におた、男の。

祝賀二郎　なんてっ。

捨吉　かすかに、におた、男の、夜の。

祝賀二郎　わりゃっ。

捨吉　質屋ぜっ、おりゃ、次男坊でんっ。

祝賀二郎　……におたな。

捨吉　かすかに。

祝賀二郎　ええいっ、倭子っ。わりゃ倭子っ、どこでなんばあっ。さびしゅうに笑いよるっちゃなかかっ。おびえて、ふるえて、えすがって、さびしゅうに笑いよるっちゃなかかっ、倭子っ。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。

風の中からよたよたと銭湯屋吾一が。
その風体まさしく遊び人のそれである。

吾一　おう間におうたっ。つんなむぞ、祝賀しゃん。おいもなぐり込みにつんなむぞっ。くそう、祝賀しゃん。祝賀二郎やんっ、ボリュームいっぱい、おいの命いまボリュームいっぱいぞうっ。道具ばくれないっ。神原組はぼたうちくらわしちゃるけんで。道具ばくれないっ。

捨吉　こんよごれがあっ。なんなっ吾一っ。

吾一　くやしかじゃなっかあ、祝賀やんよいっ。こん遊び人の銭湯屋吾一の命の、くやしゅうして、なさけのうして、ボリュームいっぴゃあにがんがんがなるぞっ。くそっ、道具は、日本刀とヤッパとマイトと、してして、ツルも。わなわなするっ、くそう。

捨吉　なんなっ、吾一。こりゃおてつけってばっ、ほりゃ、青少年名画観賞友の会の。のっ、ほりゃ新作、題名は春のっ。

吾一　やぐらしっ、だぽっ。おりゃ今日という今日は、いかなおいもぐらぐらしたぞっ。祝賀やんっ、なぐり込んじゃるっ。道具ばっ、つんなもやっ、祝賀しゃん。

捨吉　どぎゃんしたとなっ、吾一。

吾一　どぎゃんもこぎゃんもよたごろぞっ、あいどまあ。

捨吉　またこのあっぱっぱっ。酔うとるなっ、ぬしゃ。

吾一　おう酔うとるっ。親父の通夜からずううっと酔うとるっ。ぐらぐらすっぞ、サーカスてろなんてろで今日の松浦ごてごてしとるっ。年中くんちならよかにゃって、おりゃついうかれたとよ。ばって、あんまし銭のなかっ。銭のなかくんちははかなかくんち。しょんなかっ、ブーたい、麻雀たい。

捨吉　またこりがこのう。

吾一　死ぬまで働かんっちゃから。決めたっちゃから。銭もうけはバクチバクチ。雀荘にのっ、神原の若っかとのごろつきよるっ。よっしゃ来ないってなもんたい。死ぬまで働かんちゃから決めたっちゃから。ブーたい、麻雀たい。キャッシュよ、もちろん。

捨吉　銭あ、なかっちゃろがや。

吾一　おりゃ、なかよ。

捨吉　またこりがこのう。

吾一　よかろうがや、勝つとやけんで。

捨吉　負けたっちゃろがや。

吾一　なして知っとるとか、見とったなぬしゃ。

捨吉　あほたれ、このっ。

吾一　銭ば払えっていうとぞ、銭ばっ。こぎゃん話のあっかっ、のう。働かんおいにっ、のう。

捨吉　こりゃ、吾一。ようと考えてんろ、のっ、ようと考えてんろよ、ぬしゃ。

吾一　酔うとっとにようと考えらるっか、だぼっ。おりゃ、ようよ国士てんぱったとぞ。したらロンっていうとぞ、ロンってっ。鬼ぞ、血も涙もなかぞ、あいどまあ。

素好　こぎゃん生き方すっと楽じゃろのっ、人生も。

吾一　うん、楽よ、わりとのっ。

捨吉　わりゃ、もう帰あれっ。

吾一　おりゃ、決めとるっちゃから、死ぬまで絶対働かんちゃから。　極道するっちゃから。そんおいに銭ば払えってあいどまあ。

捨吉　ぬしん親父ものっ、なんが路傍の石がモデルかのっ。吾一、どこがっ。

素好　とぼけとるなっ。名前負けの典型よっ。

捨吉　その点、おりゃ捨吉じゃから。

吾一　せからしっ。おいの人生はおいが主役ぞ、ずんだれっ。ぬしどまおいの人生の脇役ぞ、だっ。おいば中心にやらんかっ、だぼっ。おりゃぐらいすっよ、祝賀しゃんよい。聞いたぞ、おりゃ。祝賀しゃん。

祝賀二郎　なんてっ。

吾一　決まったとってぞ。こんゴーストタウン解体して、あんボタ山頂上から崩しぞっ。おいの親父の、ぬしの親父の骨の埋まっとるあん廃坑ば埋めつくしてぞっ。ここばずらりべったり平地にしてぞっ。工場の建つとってぞっ、失業対策事業ってぞっ。働けってぞっ。

祝賀二郎　じゃろがっ。
吾一　働いてたまっかあ、働いたっちゃ働かんちゃあどうせどうせぞ。そん解体なあ神原組が請負うとってぞっ。
祝賀二郎　じゃろがやっ。
吾一　働いた親父なあ、あすけえ埋った。どうせどうせぞ、なぐり込もでっ、祝賀しゃん。やつさもさらにしちゃろうでえ、祝賀しゃん。さっ、おいが酔うちょるうちに。働いてたまっかあ。さっ。
祝賀二郎　よどんだ風のうろつきさるきよる。ほりゃ死んだ命のうろつきさるきよるっ。こんゴーストタウンの解体なあ、おいがすっとぜっ。どぎゃんしてでん。のうっ、時間のなかっ。
吾一　おうよっ。時間のなかっ、酔いのさむるっ。
祝賀二郎　命のさむるっ。時間のなかっ。神原組にきっぱりナシつけちゃるっ。よっしゃ、捨吉仕度しない。
捨吉　おいがっ、おいもなっ。
祝賀二郎　友情じゃろが、わりゃっ。
捨吉　友情っ。もうぐんぐん友情おしつくるっちゃらっ。
祝賀二郎　（散弾銃を構えて）わりゃっ。
捨吉　わっ、おどすなっ、友情ならなだめすかせっ。わっ、撃つなっ。やるっ、やるってばっ。

ぬしゃほんなこと撃つせん、好かんよ。
祝賀二郎　素好っ。
素好　おうよっ、どうせ未成年っ。汗と涙の高校野球。
大徳　なんか、そりゃ。
祝賀二郎　大徳っ。
大徳　なんてっ。
祝賀二郎　きないっ。
大徳　めっそうなっ、なにゆえのっ。
祝賀二郎　やぐらしっ、員数合せっ。
大徳　ぼ、ぼくは肉体労働はっ。
祝賀二郎　（散弾銃を撃って）遺言ばいえっ、電話電報でいえっ。
大徳　やるっ、やりますっ。スポーツのつもりでっ、アマチュアの精神でっ。……なあしここにおっと、ぼく。
祝賀二郎　はっきりさしちゃるっ。どぎゃんことのあったっちゃはっきりさしちゃるっ。こんゴーストタウンの解体なあ、おいの、ぬしのっ、ぎりぎりいっぴゃあここでこぎゃんしとるおいどんの手えで。みとどけちゃる。みとどけてこん松浦においの命しっかと根っ子張らしちゃる。ここで死ぬっ。どぎゃんしてでんっ。（遠くへ）倭子っ、そこば動くなっ。じっとしとれっ。兄

ちゃんは遠うはなっとらんとよ、倭子。離れて遠うなりよっとはっ、倭子っ、ぬしぞうっ。

吾一　おう、動くと働かんで、なまっとる身体に酔いのぐんぐん回るっ。したらっ。

素好　ほいほいっ。道具はなっ、ギャラ払ろてよなっ、祝賀しゃんっ。道具道具。

吾一　あん廃坑に、いっぴゃあっ。

祝賀二郎　心中しちゃるっ。おいの命、こん松浦と心中しちゃるっ。倭子っ、覚えとるかっ。遠賀川の川筋ば、親父に手ひかれて、ぽつりさるいて、どこてろかしこてろうろつきさるいてこん松浦に着いた雪のあん日ばあ。倭子っ、こん肥前松浦とおいの命心中たあい。

素好　さあっ、やろでやろでえっ。

捨吉　素好っ。

素好　ひっちゃぐらしっ。青春の想い出にっ、汗と涙の高校野球。青春とはなんだっ、これが青春だっ。松浦の。（唄うのである）。

大徳　校歌を唄うなっ、校歌をっ。

素好　肥前高校第一応援歌ヨーイッ。

大徳　やめろってっ、そいが愛校精神のつもりか、ぬしゃっ。

捨吉　（泣いて）ようよ社会復帰したばっかしぞ、おりゃ。

吾一　極道になろで、のっ、極道にっ。よかぞ、働かんでよかっちゃから。みんなそろって極道にっ。よっしゃっ、仕度仕度。死ぬまで働かんちゃからっ、決めたっちゃからっ。

祝賀二郎　きないっ。

祝賀二郎を中心に捨吉、素好、大徳、吾一と廃坑へ。

保造　よかったあ、おいに気づかんで、よかったあ。

吾一、廃坑からよたよたと……。

吾一　すまんっ、ぬしに気づかんでっ、すまん。さっ仲間にしちゃる、きないっ。

保造　……

吾一　どぎゃんしたと、んっ。一生働くともきつかばって、死ぬまで働かんともきつかぞう、のう。きつかきつかっ、さっきないっ。のっ、のっ。

保造　……

吾一　あんのっ、おいに朝酒呑まするごたるよかおなごのおらんや松浦に、えっ。ああ、紐になりたかのう、のう、おいで。

吾一、保造廃坑へ。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。
良子唄う〝時には母のない子のように〟。

良子　……ここものうなっとね、いよいよ。
おばば　……ありゃ、ぽっかり空と海に浮うで島の、うっすらと。
良子　……ほんに。
おばば　あいたこりしょ、どっこいしょ。ここのおなごはにゃ、くるしゅうなっとこけえこぎゃんしてにゃ、くるしゅなっとこぎゃんして、手の平ににゃ、命、命、命って三回書いて、ぺろってなむっとよ。しょっぱか命の味のして、して茶ばすするとよ。してじいいってしてにゃ海ば見るとよ、しばあしにゃ、なんがなあしな。すっと、身体のぬくもってほううっとしてにゃ、命は忘れとると。……命ば忘れてにゃ、命ば忘れていろいろ想うとよ。あぎゃんなりたかにゃの、こぎゃんしたかにゃのって。そん夜夢ばみると、なりたか夢ば。……ここのおなごのいろんないろいろば。海の夢にしてくるるとじゃろ。じゃろ、じゃろのう。男は、男はここば通るときゃ唾ばひっかくる。海に。ありゃあのうありじゃろ、男の、なんちゅうか、あのう、んにゃ。
良子　どぎゃんしたと、おばば。
おばば　（ほっほっと笑って）なんぼ考えよったかにゃあって、考えよった。

良子　そうね。
おばば　ここの男は、命、命、命って三回書いてぺろとなむっと、命の味にぐらぐらしてわがの命にどまぐれて、人ば殺すけんで。で唾ひっかけたとかにゃ、そうかにゃ。
良子　じゃろ。
おばば　今日の晩なあ、うちの生まれてからいままでば夢にみるかもしれん。みたかにゃあっておもたせん、いま。
良子　みて、どぎゃんすっとね。
おばば　そりゃ、泣くじゃろだい。
良子　泣くとね。
おばば　ここの、のうなったら、どこで死のかにゃあって考えよったあ、いま。あいたこりしょ、どっこいしょ。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。
風の中をゴーストタウンのおばばじりっじりっと地面を這う。

良子　どけいくとね、おばば。
おばば　はっきりさせとかんばいかんことのあっけんで。

風が遠く近くに明日のおくんちに舞う面浮立の稽古の音を運ぶ。

良子　ありゃ、面浮立じゃなかね。明日おくんちね。……お兄ちゃん明日おくんちよ、お兄ちゃん。

良子音のほうへ。

じりっじりっと地面を這うゴーストタウンのおばば。

風の中にぶつぶつと念仏唱えながら、じりっじりっと地面を這うもう一人のおばば、西浦（にしゆうら）のおばばである。二人のおばばがゴーストタウンの西と東からじりっじりっと対立しにじり寄る。

良子　（倭子の手紙を読む）昨夜（ゆんべ）風呂屋でカミソリ踏んでうちの足のうらからどぶどぶ血の流れて、つくづくそうおもた。今日も寒か、うち。……兄妹でん大人になっと遠うなってしまうとね、お兄ちゃん。お兄ちゃんか、どこでどうどもしょるとにいろ、お兄ちゃん。三郎兄ちゃん、悪の限りを尽し三郎兄ちゃん。遠うなってしもて、ありゃ、動いた、こん子。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。
風に良子消えた。
風の中に睨み合う二人のおばば。

西浦のおばば　（きっと）まあだ死んどらんばいね、こん人っ。
廃坑のおばば　（きっと）あんたの逝くまで、逝くもんじゃすなっ。死んだっちゃっ。
西浦のおばば　なんちゅう性悪じゃろかいっ、こんおなごなあっ。
廃坑のおばば　そりゃ、そっちでござっしょうだいっ。
西浦のおばば　ありゃ、こんおなご紅（べに）ばしとらす、いやらしさあ。
廃坑のおばば　ほっ、眉墨どん塗って、ようござすなあ。ほんにようござすっ。
西浦のおばば　……あんたの死ぬまで死にゃせんけん。あんたの死ぬとばじいっと見て、ゆっくり笑うて死ぬけんで、うちゃ。（力込めてつぶやく）はよう死にないっ。
廃坑のおばば　なんじゃすなあ。
西浦のおばば　（力込めてつぶやく）はよう死にないっ。
廃坑のおばば　はあて、なんでござっしょうかい。んにゃ耳のえっと遠うなって、はあっ。
西浦のおばば　歯がゆさあ、どうじゃろかい、こんおなごのっ。
廃坑のおばば　（力込めてつぶやく）死ねばよかとに。毎晩祈りよるとにっ。死にないよっ。

西浦のおばば　（ほっほっと笑って）今朝もばい、医者しゃんのばい、ござっしゃって、えっと死なんじゃろこんおばばってばい。えっと十年はってばい、いわすとばい。んにゃ命冥加も、因果なこってござすよな。あいたこりしょ、どっこいしょ。（懐から煙管を出して火をつけて、気持よさそうに吸うと、力込めてつぶやく）はよう死にないよっ。

廃坑のおばば　（懐から煎り豆を出して食うと、力込めてつぶやく）はよう死にないよっ。

西浦のおばば　……あんたどっからきたとじゃったかね、こけえ。

廃坑のおばば　……あんたここしか知らんで死ぬとばいね、とうとう。

西浦のおばば　なあいっ、うちゃここの人間じゃすっ。ごろうじまっせ、あすけえあるでっしょが。あすこで生まれて、娘になって、ほりゃあすけえ嫁に。して、そりしこ。あいたこりしょ、どっこいしょ。あすこが墓地じゃす。

廃坑のおばば　ぼちぼちじゃろ。

西浦のおばば　（ほっほっと笑って）ぞうたんのごとなかぞうたんば、こん人の。

廃坑のおばば　ぞうたんのごと、ぞうたんじゃなか。ぼちぼちじゃろだい。

西浦のおばば　（きっと）あん人の骨もあすけえあっとでござすっ。

廃坑のおばば　あん人の命は風になって、ほりゃこけえ。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。

西浦のおばば　うちの和子の、昨夜（ゆんべ）心中した。
廃坑のおばば　……（ため息つく）。
西浦のおばば　カミソリで。まっ、命は取り留めた。ひさしゅう血のにおいのせんで、こりゃよかあんびゃあってほううとしとったばって、昨夜（ゆんべ）におた、ぷうんと。
廃坑のおばば　……。うち死んでもようござしたとよ、あん時。（首の傷を見せて）うずくとよ、風に、傷の、カミソリの傷の、いまでん。
西浦のおばば　ほこらしゅうに。したら、なあし死なんじゃった。
廃坑のおばば　なあしじゃろか。死人（しびと）になったあん人ば、なあしじゃろか、うち、えろう。あん人のカミソリの切り口の、ぴゅうぴゅうって笛のごと、風で、ぴゅうぴゅうって鳴ったとでござす。……腹ん子のごそって動いたと、腹へったにゃあっておもた。生きとるにゃあっておもた。
西浦のおばば　そん切り口ば洗うて、綿ばつめて、うち。お通夜の、ひとりびとりの目えば、忘れられれん。死のうておもた。死んだら笑わるるっておもた。泣かんばいかんとじゃろかいっておもた。泣いたらいかんとじゃろかいっておもた。
廃坑のおばば　……すみまっせん。
西浦のおばば　なんの。男の目の、暗うなっていく時代じゃった。どこからもかしこからも血の

においのして。ゆるしとるとよ、もう。

廃坑のおばば　……。

西浦のおばば　ばって、ゆるしとらんと。

廃坑のおばば　……。あん廃坑にもぐったことのござすな。

西浦のおばば　んにゃっ。

廃坑のおばば　あんたの知らん松浦のござすばい。

西浦のおばば　……。

廃坑のおばば　あんたの知らん松浦のござすばい。

西浦のおばば　……。満州っちゃ、あっちでござすな。

廃坑のおばば　日の沈むほうでござす。

西浦のおばば　……。遠かとでござっしょうなあ。

廃坑のおばば　まあだ、うずくとでござすな。

西浦のおばば　なんのっ。

廃坑のおばば　おなごの。

西浦のおばば　（ほっほっと笑って）うずくほどのおなごはござっせなんだ、とうとう。とうとござっせなんだ。家に喰われたとでござっしょ。あん人の死んで、んにゃ殺されてっ。

廃坑のおばば　死のかっていわっしゃったたあ、あん人でござす。

西浦のおばば　（強く）殺されてっ。あん家でたった一人になって、毎日やさしゅうにいがみあうとでござすよ。笑ろうてな、笑ろうて。義母（はは）しゃんの死んだ日にゃ心から泣ゃあた、うれしゅうして。（ほっほっと笑って）うずくほどのおなごはござっせなんだ。

二人のおばば、遠くを見て、手の平に「いのちいのちいのち」とつぶやき、書いてぺろっとなめる。

西浦のおばば　（力込めてつぶやく）はよう死にないっ。

廃坑のおばば　（力込めてつぶやく）はよう死にないっ。

西浦のおばば　……ぬらりおおどもん。

廃坑のおばば　あんた、あん世のあるせんようござすなあ。（土を弄って）うちゃ、こうなるとでござす。あん世のある人となか人のあるとでござす、あんたようござすなあ。うちのあん世は、あん日にのうなりかしてしもうた。んにゃ、傷の、うずく、風に傷のうずくよう。

西浦のおばば　うちの一生、うちじゃのうしてもよかったとよねえ。わざわざうちが生まれんでんようござしたとでっしょ。なあ、あんた。ゆるしとるとよ、もう。ばってゆるさんと。あいたこりしょ、どっこいしょっ。

廃坑のおばば　あいたこりしょ、どっこいしょっ。

西浦のおばば　（力込めてつぶやく）はよう死にないっ。
廃坑のおばば　（力込めてつぶやく）はよう死にないっ。

二人のおばば〝はよう死にないっ〟をくり返し、睨み合う、西浦のおばば懐から出刃包丁、廃坑のおばば懐から剃刀、二人睨み合い笑う、笑いは泣き声のように風がする。

西浦のおばば　……あんたに負けた。
廃坑のおばば　……んにゃ、あんたに負けたと。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。
廃坑からそれぞれに武装した祝賀二郎、大徳、捨吉、素好、保造、吾一が……。
祝賀二郎宣戦布告の散弾銃を撃つ。
吾一、全員の手にしている茶碗に一升瓶から酒を注ぐ。

素好　なんないっ、こぎゃんにちびっと。
吾一　やぐらしっ、未成年じゃろがっ。不良少年のう、ぬしゃっ。
大徳　ぼ、ぼくはワイン。（吾一にぎろっと睨まれて）よかっ、呑みまっしょ。

吾一　よっしゃ、ぐびっとやんないっ。ぐびっとっ。よかのっ。こん盃ぐびっとやって生涯手ば握りおうて極道にはげもうでっ、のうっ。

大徳　ぼ、ぼくはヘアースタイルからしてっ。（吾一にぎろっと睨まれて）よかっ、明日散髪にっ、よかっ。

保造　おりゃ警官じゃけんで、そのうっ。

吾一　仲間じゃなっか、極道と警官はっ。昔っから。こりゃ捨吉ぬしん質屋今日から暴力金融ぞっ、よかのっ。

捨吉　なんてっ親父と相談ばっ。

吾一　ひっちゃぐらしっ。親は勘当せろっ、勘当っ。

捨吉　親ばっ、勘当っ。

吾一　おうっ、なんかっ、ぬしん親父ぬしんごたるずるけた目ばしてっ。ぬしとぬしん親父まるっきし親子のごたるやっかっ。だぼっ。

捨吉　ぬしゃ、どぎゃん言語感覚ばしとっとなっ。

吾一　だぼっ、極道はどっか詩人のごと生きとっとこのあっとぞ。だぼっ。

捨吉　あほたれっ、このっ。

吾一　あほたれっ。ぬしゃ兄貴にむかって、ぬしゃ。

捨吉　兄貴っ、だがあっ。

吾一　おいがよ。
捨吉　なあしっ。
吾一　かあっ、理屈のわからん男のうっ。おいがぬしの兄貴にならんばぬしから上納金ばもらえんじゃろがっ。死ぬまで働かんちゃから、おりゃっ。
素好　楽な人生じゃあんのっ。
吾一　なあし、こん理屈のわからんとなっ。おいの人生ぞっ、じゃろがやっ。したらおいが主役じゃろがっ。そんおいがこう決めたっちゃから、のっ。そりゃしたごうてもらわんばっ、のっ。理屈じゃろがっ、のっ。
捨吉　おいの人生はよっ。
吾一　なんてっ。
捨吉　おいの人生はどぎゃんなっとなっ。
吾一　なんてっ、ぬしにも人生のあっとなっ。
捨吉　ほんに、詩人のう、ぬしゃっ。
吾一　まっ、よかよかっ。おいの人生のすんだらぬしにつき合うけんでっ、のっ。決まりっ、さてっ。
大徳　（こそっと）あのっ、ぼくの人生は。
吾一　黙れっ、教育者に人生はないっ。

大徳　さっ、その問題でござすばってっ。
吾一　黙っとれっ。さあ祝賀しゃんっ、なんなっ、どぎゃんしたっ。
祝賀二郎　……。西浦のおばばじゃなかなっ。
素好　ありゃ、ゴーストタウンのおばばと仲ように。
捨吉　死ぬとば待っとるとじゃろ、二人で。
素好　あぎゃんなっとじゃろかい、おいも。
捨吉　ならんじゃろ、男は。男はならんじゃろのう。
素好　なあしな。
捨吉　おなごはのっ、男喰ろうて老い朽ちるとってぞ。
素好　またあ。
捨吉　んにゃ、親父のいよったぜえ。酔うとのうぐじえるとぜえ。
素好　なんてなっ。
捨吉　おりゃだまくらかされた。かかあにだまくらかされた。だまくらかしたつもりがだまくらかされたあって、ぐじえるとぜえ。おふくらあかまどにしゃがみこうで、火に顔ばあぶられて、にゃあっと笑うとぜえ。
素好　だまくらかすとが商売のあん強突く張りがなっ。
捨吉　なんがっ。

素好　（ごまかして）ほう、そうなあ。

捨吉　うわさじゃのう、あんゴーストタウンのおばばなあ、あん西浦のおばばの亭主と心中しとっとぜえ、心中。してあんおばばだけ生き残っとるとぜえ。因果ぜ、こりゃ。昨夜（ゆんべ）は西浦のおばばの娘の心中しとるっちゃからっ。

吾一　なんななんなっ、どぎゃんしたっ。こりゃ祝賀やん。ほりゃ景気つけないやっ、景気ばっ。こりゃぐびっとやんないっ、ぐびっと。こりゃ捨吉、ほうりゃ日の落ちるっ、青少年名画観賞友の会やっちゃらんかいっ。して、なぐり込もうでっ、のうっ、ほりゃっ。

祝賀二郎　なあし、心中したっちゃろかい、和子ねえちゃんなあ。

吾一　よかっ、よかよかっ。のっ祝賀しゃんよいっ、ほりゃ酔いのさむるっ。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。

風に全身に刺青をした六尺褌一枚の神原満が日本刀振り回し走る、走る。首に巻いた包帯が風になびき、鮮血がぴゅううっと風に飛ぶ。

保造　わあっ、神原の満しゃんのうっ。

吾一　なんてっ。

捨吉　神原の満しゃんっ、和子さんと心中ばした神原の満しゃんなっ。わあっ。

祝賀二郎　なんてっ。

満、日本刀振り回し祝賀二郎、大徳、捨吉、素好、保造、吾一の中へ、その形相の物凄さにへたへたと座り込む若者たち。

満、首から飛ぶ鮮血物ともせず、仁王立つ。

満　わいどまあ、和子ばどぎゃんしたっ。どぎゃんしたなあっ、わいどまあっ。

祝賀二郎　（震えて）しっ、しりませんっ。

満　わりゃ。

満、日本刀を振り回す。逃げる若者たち。

満　どけえっ、どけえいったあ和子っ。もどりなあいっ、おいのとけえもどりなあい、わりゃ、わりゃあああっ。

満、鮮血風に飛ばして走り去る。

吾一　（震えて）あ、あいがっ、神原の満なっ……
捨吉　（震えて）か、神原組の、（茶碗の酒をぐびっと呑んで）た、大将っ。
素好　（震えて）風の、風のっ、しいいんとしてしもたっ。
吾一　ひっ。
捨吉　わあっ、なんなっ。
吾一　血の、べったりっ。

吾一、手の平に付いた血を見せる。

捨吉　わあっ、すなっ（ぐえっと戻す）。
素好　……ひったまがったのう。
祝賀二郎　心中の相手っちゃ、神原組の、満なっ。
捨吉　そ、そうっ。
吾一　（手の平をごしごし捨吉の服で拭って）よ、よしっ、もう今日はなしっ、ちゃか。のっ、のって、そうしゅうやっ、のっ、ちゃかっ。
捨吉　（吾一へ）なんばしょっと。
吾一　ぬぐいよっと。

捨吉　なんば。
吾一　血ば。
捨吉　わっ、すなっ血のひっつくやっかっ、すんなって。まあだ流れとらんとぞ、こん服っ、質草ばっ、こりゃっ。
保造　こ、こりゃ、事件ぞっ。こりゃっ、素好っ、きないっ。んにゃ、ぬしゃいらんっ。警官不適格っ。

保造走ろうとする、祝賀二郎散弾銃を撃つ。かまわず逃げる保造、大徳。

捨吉　えすかとなっ、祝賀やんっ。
祝賀二郎　（散弾銃を撃って）えすかあっ。

その声は落日の廃坑に谺し、応えるように鐘の音が響く。

祝賀二郎　風のなかっ。風のなかやっかあっ。倭子おっ、兄ちゃんなあ、えすかぞういっ、えすかぞういっ。

廃坑から〝なあんがえすかなあ〟の声。
どこかで良子の唄う声〝松浦の子守唄〟。

祝賀二郎　なんてっ。

吾一　だ、だいかおっぞ、廃坑にっ。

捨吉　だだいかあっ。

廃坑から〝こかあ気持よかのう〟の声。

捨吉　だかあっ。

〝でんでらりゅうば、でてきゅうばってん、でんでられんけん、こうられんけん、こんけられんけん、こられられんけん、こうん、こうん〟と唄う声。

吾一　だいかあ。

廃坑から〝きてんないっ、ごろのまきかたおしえちゃるけん、きないよう〟の声。

吾一　こりゃ捨吉、いけっ。
捨吉　ぬしがいけっ、ぬしがあっ。極道じゃろがや、ぬしゃっ。
吾一　極道ちゅうても、おりゃ軟派の極道じゃけん。紐志願のっ、かよわか極道よっ、のっ。
捨吉　またこりがこのう。
祝賀二郎　だいかあ、死んだ人かあ。よしっ、きないっ、きないってっ。

祝賀二郎、捨吉、吾一、おそるおそる廃坑へ〝わあっ〟〝やぐらしっ〟〝すんなって〟〝なんてっ、ぬしゃ〟〝おうっ〟の声がして静まる。
にやにやして素好が一人廃坑から。

素好　おもしろさあ。えすかとばこっけんころりん忘れて、んにゃおもしろさあ。おばば、こりゃ、おばば、廃坑にきてんない。ちょこっと、こりゃ。
西浦のおばば　鐘のほりゃ。海から、海の底から。
廃坑のおばば　ほんに。鐘の、ほうとする、こん時刻になっと、ほうとする、ゆったり今日ば眺めらるる。
西浦のおばば　ああ、とうと今日も死なんじゃった。

廃坑のおばば　ああ、とうと今日も死なんじゃった。

鐘、響く。

〝おばばあっ、おばばしゃまよういっ〟と羽織袴の満鉄が走り込んだ。

満鉄　おっ。（夕日に気づいて）ふんっ、こっぺのしんだっ、夕日の沈みよるっ。こまさこまさあ。ここん夕日のこまさこまさあっ。満州いってんないやあ満州に。こぎゃんふとか夕日の沈むとぞう。ごうって音ばさせて、空いっぴゃあに炎にじませて、ごううぐらぐらあああって沈むとぞう。ぴしぴしぴしって夜になっと雲けちらして風の吹くとぞう。……あっとばってなあ、あん海のむこうに、あっとばってなあ。

西浦のおばば　なんのあっとなっ。

満鉄　おっ、おばばっ。

西浦のおばば　知っとる、和子のおらんごとなったっちゃろっ。

満鉄　死ぬっちゃなかなっ。

廃坑のおばば　……もう死なんっ。死にぞこないなあ、もう死なんと。ずるずると生きるとよ、生きそこないになってでん。

満鉄　なんてっ。ぬしゃっ。

廃坑のおばば　ほいっすみまっせん、生きとります、まあだ。
西浦のおばば　のう、満鉄。
満鉄　なんな。
西浦のおばば　満州で、なんのあったとな、なんのあったとな、満州で。
廃坑のおばば　だあいも、なあし満州のこたあ語らんと、なあし。
満鉄　さあのう、たあだ。
西浦のおばば　たあだ。
満鉄　おりゃ、おいば、おいのおいば、おいてきたごたる。あっとばってにゃあ、あすけえ、おいの。（笑って）おなごはよかのっ。
西浦のおばば　あいたこりしょ、どっこいしょ。
廃坑のおばば　あいたこりしょ、どっこいしょ。

満鉄　西浦のおばばを負ぶう。素好、ゴーストタウンのおばばを負ぶう。

満鉄　おばばよい。
西浦のおばば　なんな。
満鉄　もう、おいとおばば、親子にゃ見えんじゃろのう。

西浦のおばば　じゃろか。
満鉄　見えんじゃろ。和子も、妹のごたる気いのせんとよ、どっか。おばばよい。
西浦のおばば　なんな。
満鉄　こぎゃんして、和子と満州の夕日ば見たとばい。影のなごうにのう。ありゃかわいかおな
　ごじゃった。
西浦のおばば　そうなあ。
満鉄　おばば。
西浦のおばば　なんなっ。
満鉄　昭子ば、昭子ばのっ。おりゃ、昭子のいたましゅうしてっ、いとおしゅうしてっ。
西浦のおばば　（ほっほっと笑って）昭子はのっ、ぬしの妹、和子の妹、うちの娘、ありゃうち
　の娘よ。
満鉄　おばばよい。
西浦のおばば　なんな。
満鉄　死ぬなよな。

鐘、響く。

素好　（嬉々として）おばばよい。
廃坑のおばば　なんな。
素好　（嬉々として）警官のアルバイト、ちゃら。ノーギャラぜ、ボランティアぜ、おばばよい、おもしろなっぞ、こりゃっ。
廃坑のおばば　ここも、のうなっとなあ、いよいよ。
素好　（嬉々として）さあのう。
西浦のおばば　（廃坑のおばばへ）そいじゃ。（力込めてつぶやく）はよう死にないっ。
廃坑のおばば　（西浦のおばばへ）そいじゃ。（力込めてつぶやく）はよう死にないっ。
素好　（嬉々として）死にないっ死にないっ。
満鉄　ぬしゃ。
素好　おう、おんちゃんっ。
満鉄　ぬしゃ、末永のっ。
素好　ないっ素好でござすっ。男盛りでござすっ。
満鉄　知っとる人あ死ぬ。知らん人の生まるる。（遠くを観て）おりゃ、あすけえおいてきたごたるおいのおいばあ。

廃坑天辺からころころころころと石が転がる。

満鉄　んっ。

廃坑の天辺に白い着物の和子。

和子　ああ、首の傷の、気持よさあっ。

ぴしっぴしっぴし、と音をたてて廃坑一面にまっ赤なまんじゅしゃげが咲く。
さそわれて白く霞んで昼の月。

満鉄　和子っ。

和子　兄ちゃん、見ゆるごたるよ、満州のうっ。

廃坑のおばば　あらあ、まんじゅしゃげの、彼岸花のきれさあ。

西浦のおばば　きれさあ。まんじゅしゃげの、彼岸花の、肥前花の、きれさあ。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。

風に８ミリの映写機が回る。和子の首に巻いた包帯が風になびき、鮮血がぴゅううっと風

に飛ぶ。
鮮血風に飛ばして満が走る、走る。

満　和子おうっ、動くなっ。そこば動くな、わりゃ和子おうっ。

廃坑から散弾銃の音、面浮立の男たち走り満と対立する。
太鼓……。

満　どかんかあっ、わりゃあっ。

面浮立の一人面を取る。三郎である。
風に走り込んで良子。

良子　お兄ちゃんっ、お兄ちゃんじゃなかねえっ、あっ肥前花のっ。
三郎　（満へ）動くなあっ、動くなよう。わりゃっ、生きとったとかっ良子っ。
良子　お兄ちゃああんっ。
満　三郎っ、悪の限りを尽し三郎っ、わりゃっ。

三郎　（散弾銃構えて）動くなっちょろがあっ。

三郎ひっかけていた上着を取る。上半身にびっしりと刺青。

良子　お兄ちゃんっ。

廃坑スクリーンにして８ミリが回る。

スクリーンにセーラー服の女。面浮立の一人面を取る。祝賀二郎である。

祝賀二郎　……（スクリーンへ）……。倭子っ、倭子じゃなっかあっ、倭子っ。

スクリーンの女笑っている。

祝賀二郎　倭子、わりゃ、倭子っ。なんばしょっかあ、わりゃっ。動くなっ、そこば動くなっ。お兄ちゃんがいっちゃるけんっ。動くなっちょろがあっ。倭子っ。見んなあっ、わいどまあっ、見んなあっ。

骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。

西浦のおばば　まんじゅしゃげの、彼岸花の、肥前花の、きれさよう。
廃坑のおばば　きれさあ、肥前花のっ。

和子、唄う〝肥前松浦兄妹心中〟。
廃坑一面のまんじゅしゃげ。包帯風にたなびき、鮮血風に飛ぶ。面浮立の太鼓高なり……
映写機は非情に回る。
骨身晒した廃坑にごうごろごろと風が吹く。

ゆっくりと幕

肥前松浦兄妹心中

肥前松浦兄妹心中　兄は十八　妹は十五

兄は十八名前を与吉妹十五で名前をお弓
そもそも二人の馴れ初めなれど

夏は夕暮れ宵待草が　開く庭先お弓の湯浴み
花に競うかお弓の肌は
月の出端に仄白く蛍光りも影になる
なんの因果か兄者の与吉　夕顔棚に涼みのそぞろ
見てはならぬは魔道の中ぞ菩薩弁天台(うてな)の甘美

肥前松浦兄妹心中　兄は十八　妹は十五
恋の病い良薬もなし日夜青息兄者の与吉
知らぬ妹は兄様大事医者に薬と願かけ百度
想いあぐねた兄者の与吉母のお糸に想いを開けりゃ
あわて驚く母親お糸父の善兵衛打ち明け話
困る親思案の末はこれじゃ世間で犬畜生と
いわれ恥かしのれんに傷がいわれ与吉は商い修業

肥前松浦兄妹心中　兄は十八　妹は十五

知らぬ妹がある朝目覚め兄様いずこと問いかけたれば

兄は身内へ商い修業年の二年もお出かけなさる
なぜに突然お出かけなさる兄者いうには妹見れば
吉の門出に別れの涙
巡る月日は二年十日秋の夜風に虫の音悲し
悲しやなぜ泣くなおさら悲し兄様御身はいかがと妹

肥前松浦兄妹心中　兄は十八　妹は十五

今の頃にか門付け虚無僧胸の明音尺八音色
年の頃なら十七、八か顔の中まで見られはせぬが
乙女心がなぜにか騒ぐ今日も今日とて御店（おたな）の前に
紅も知らない乙女の顔に色の香桜は八分咲き
さし出す供物に手がふるえいとし恋しや虚無僧様は

略

雪が降る降る玄海灘にいとし悲しと雪が降る

積もる白雪不浄をつつみ落つる涙を凍らせる
兄は泣く泣く妹抱いて七つの鐘を六つに聞いて
後のひとつは冥土の土産
雪に筋引く赤縮緬（ちりめん）はお弓悲しの悲恋花

肥前松浦兄妹心中　兄は十八　妹は十五

辿り着いたは奈落の崖か下に渦巻く冬波泡は
暗い波間に夜目にも白く雪は降る降る星鹿の岬
妹お弓の軀骸（むくろ）を前に兄の与吉がダンビラ抜けば
キラリ光った雪白青さ映る想いは走馬燈明り
雪に散る散る二弁の椿春を待たずの寒椿
与吉その身をお弓にふせば白い真綿の掛け蒲団

肥前松浦兄妹心中　兄は十八　妹は十五

第二幕

透明の闇に和子が唄う〝肥前松浦兄妹心中〟。風のように倭子の声。

倭子　……お兄ちゃん、昨日はいや事ばっかり書いてごめんね。どうかしとったうち。五千円同封しました。お兄ちゃんが松浦におってくるると、うち帰るとこのあるけんよかよね。またふとったごたる。ゆんべ夢ば見た。おくんちの夢。海に大漁の旗のいっぱいじゃった。お兄ちゃんはうちに綿菓子ば買うてくれた。お母ちゃんが日やといでいそがしかったけんでね。お兄ちゃんは、倭子おいがおっけんさびしゅうなかじゃろが、さびしゅうなかじゃろがってそいばっかり。うちおかしゅうて。さびしかったとはお兄ちゃんじゃったとね。ゆんべそう気づいて笑ろたよ、うち。お兄ちゃんは、うちに綿菓子ば買うてくれた。百円じゃったね。おこづかいがうちが五十円でお兄ちゃんも五十円じゃったよね。お兄ちゃんは自分じゃ食べんで、うちの食べるとば見て、うまかか、うまかかってなんべんも聞いて。なあし、なあしあん時半分お兄ちゃんに食べさせんじゃったとかね、うち。食いよるうちばじっと見とったお兄ちゃんの目の、ここでこうしとっても。

乱打された太鼓は透明の闇に窮し、詰まった。
闇のずっと遠く高くにぽっかりと満月のように廃坑の入口の逆光線一条。
その光に吾一とトロッコの影。

吾一　よかなあっ。

〝あんあんあんあん〟と廃坑内に響く。
しゅっとマッチを摩る音、燭台に火が灯る。捨吉の顔が闇に揺れる。

捨吉　おうっ。

〝おんおんおんおん〟と廃坑内に響く。

吾一　よっしゃ。

〝あんあんあんあん〟と響く音の中で逆光線の吾一の影トロッコを押す。
〝ごろりごろごろ、ごわんごわんごわん〟の音は、〝ごわあああん〟の大音響となり、ひ

ゆっと捨吉の燭台の火を消して〝ごうううううっ〟と遠くへ走る。闇に余韻漂う。

捨吉　……音の、まあだ、まあだ。ようと耳を澄ましてごろうじ。まあだ音の。遠かのう、こん廃坑。どこまで続いとるっちゃろかい。

マッチを摩る音、燭台に火が灯る。良子の顔が闇に揺れる。

良子　……ほうっとする。ここほうっとする、ねえお兄ちゃんっ。

やっと闇になれた良子の目が、うずくまり、うどんを啜っている刺青の三郎を捕えた。

三郎　黙っとれ、においの逃ぐる。ああっ、ここでこぎゃんして、闇で啜るうどんがいっちゃんうまかあ。のう良子。

闇を〝じゃしっじゃしっ〟の音が切る。

捨吉　なんなっ、なんばしょっとな、おばばよいっ。

うどんの湯気に廃坑のおばばが揺れる。

おばば　研ぎよると。

捨吉　なんばっ。

おばば　カミソリばっ。

〝じゃしっじゃしっ〟とカミソリを研ぐ音と、うどんを啜る音が小気味よい。

闇からにゅうっと吾一。

吾一　あんのうっ。

捨吉　わっ、ひったまがるっ。

吾一　……。（にいっと笑う）。

捨吉　笑うなっ、気色の悪かっ。

吾一　……祝賀しゃんなあ。

捨吉　そけえ。

吾一　どけえ。

捨吉　そけえっ。

揺れるローソクは鮮やかな白い着物の和子と、上半身裸身の祝賀二郎を闇に浮かばせた。
祝賀二郎の背中には刺青の下絵がびっしりとある。

吾一　祝賀しゃん、よい。うどん喰わんなっ。
捨吉　喰うかっ、ずんだれっ。
祝賀二郎　（震えながらも）……。喰う。
捨吉　なんてっ。
祝賀二郎　喰うっ。
捨吉　……どぎゃんしてでん、ずっとな。祝賀しゃん、刺青ばっ。

ぼうんと天井から雫。

和子　あっ。
良子　なんっ。
和子　雫の、傷に、首の傷に。ああ、ここ、どこね。

良子　あんたの知らん松浦。海ん下、廃坑ん中。
和子　……ひんやりしとる。闇に言葉の映るごと。
良子　喰うね、うどん。
和子　……喰う。
吾一　おばばよいっ。
捨吉　しっ、死によっとにっ、だぼっ。
おばば　喰うぞ。
捨吉　また生きたっ。命にがっついて、このう。死なんのう、なかなか人間ちゃ。まあだ音のし
　よる、どこまで続くっちゃろかい、こん廃坑。
おばば　闇ば、こんカミソリで切れんじゃろかい、闇ば。
良子　あんた、和子さんね、ほんなこつ。
和子　（笑って）だいじゃろかね、良子ちゃん。
祝賀二郎　和子ねえちゃんっ、おりゃっ、おりゃのう。
三郎　やめれっ、祝賀二郎っ。

三郎の手に刺青の針。

吾一　よかなっ、祝賀二郎。
祝賀二郎　よかっ。
捨吉　祝賀やん。

ぽうんと天井から雫。

吾一　ありゃっ雫の、井にっ、じゃぼって。上が海のう。

それぞれの想いで天井を見る。ぎしっと重く絡んで煤けた柱が軋む。

和子　……潮の、引きよる。なあし、あぎゃんことばしたっちゃろか、うち。
良子　泣きよるとね、祝賀しゃんっ。
祝賀二郎　泣きよらんっ。
三郎　良子っ、生むとか良子っ。どぎゃんしてでんっ。

祝賀二郎、涙とうどんを啜る。つられたようにそれぞれが啜り蠢く。

吾一　……まあだ、音の。どこまで続いとるっちゃろかい、こん廃坑。

三郎、祝賀二郎の背中へ刺青の針を刺す。

祝賀二郎　うっ。

三郎　……痛かにゃっ。

祝賀二郎　……んにゃっ。

三郎　……そうなっ。

闇に、湯気と雫と〝ツァッツァッツァッ〟と刺青を入れる針の音。

たおやかに海。逃げるように石段がくの字に伸び聳えて神社がある。ぱたぱたと幟が乱立し境内中央に紅白の幕張り巡した裸舞台が風に戦ぐ。その和太鼓ひとつの裸舞台に浮立の衣裳を戦仕度よろしく仕立てた萬屋三津五郎、竹之丞兄弟が意気込んで面浮立の荒事を凄み踏む。いらついて西浦の昭子。どどどどっと竹之丞太鼓を乱打する。ししゅるるうぽうんと早朝の青い空気震わせて花火。応えてぐぐっと引いた海はうねって松浦を攻撃する。石段には菊の花と線香手に西浦のおばばと満鉄が……満鉄われ関せずと海にハモニカを

吹く。〝オールドブラックジョー〟

三津五郎、竹之丞兄弟のどことなく芝居じみた凄みに昭子日本刀をぶんと振って威した。

昭子　よかねっ、よかろうねっ、どうなっ。

三津五郎　（驚いて）よっ、よかっ。

昭子　よかっ。よっしゃっ、動乱よっ、クーデターよっ。うちゃ松浦のジャンヌダルクよっ。したらっ、いこでえっ、竹之丞っ。

竹之丞　おうっ、やっちゃろでえっ。あっ（太鼓を叩いて）ごろうじっ、兄ちゃん。旗のっ、色とりどりの漁船団の、しぶく風にっ波にっ、大漁旗いっぴゃあはためかせてフルスピードで海ばかきまずるやっかあっ。海の満艦飾ば映して映えて朝にきらきら光ってっ。ほりゃっ、兄ちゃん絵巻物の合戦のごとっ。

昭子　（日本刀ぶんっと振って）なんばしょっとねっ、動乱よっ、クーデターよっ。こんねっ。

竹之丞　兄ちゃんっ。血のさわぐやっかあっ。

三津五郎　おうっ、南無八幡大菩薩っ。聴こゆるっ、見ゆるっ。ほりゃっ、蒙古襲来絵詞（えことば）のっ。合戦絵巻のっ。のう、竹之丞っ。

竹之丞　よっしゃっ。いくぞっ、兄ちゃんっ。

昭子　こりゃっ、三津五郎っ。わりゃびびったとねっ。

三津五郎　（あわてて）ごろうじろっ、あん文永弘安の役の蒙古襲来っ。鷹島にっ。（海を指して）あん鷹島に結集した元の軍団はっ、まさにっ、まさに敵前上陸作戦ば、日本攻略戦ば開こうとしたとでござすっ。

竹之丞　（太鼓を叩いて）うぬがあっ。

三津五郎　ああっ、蒙古襲来絵詞のっ。ほりゃっ動きよるっ。ごろうじっ、こん玄海灘にちらばっとる大小無数の島の衆なあ、じいっと潜んで手えば合せて、泣きじゃくる赤子ば俯せて殺して元の船の通り過ぐるとばいのっとった。八月の海の、八月の太陽の、しんとして、じりじりと夏の盛りの音だけのしとったっつおうっ。

竹之丞　（太鼓を叩いて）やっちゃれっ、兄ちゃんっ。

三津五郎　おうっ、松浦党は参集したっ。草もゆるがす、かっと照るこん松浦に銅鑼のっ、法螺貝のっ、馬の蹄のっ。（山を指して）あん合戦原（かっせんばる）にっ、星鹿（ほしか）半島あん城山にっ、逃げの浦にっ、こん肥前松浦にっ。ああっ馬嘶き、火矢飛びかいっ、見よっ、わが松浦党薄化粧した鎧武者の一騎がけっ。おおっ、おおっ。

竹之丞　（太鼓乱打して）どぎゃんしたっ、兄ちゃんっ。

三津五郎　戦況のっ、目のあたりにちらちらしてっ、こ、言葉のみつからんっ。

竹之丞　にわかに神風吹き来たり、兄ちゃんっ。

三津五郎　おうっ、海に沈んだ鎌倉武士のっ。

竹之丞　おうっ、ほりゃ、どこともしれず琵琶の音のっ、兄ちゃんっ。
三津五郎　ごろうじっ、ここでこぎゃんして柔らこうに松浦にふりそそぐ海ば見とっと、聴こゆるっ、見ゆるっ。ほりゃ、蒙古襲来絵詞のっ。合戦絵巻のっ。

どっと喊声。どんどんどんと漁船団のエンジンの音……。
保造と大徳がいた。

保造　時代劇の復活しとるのうっ。
竹之丞　（感窮まって）兄ちゃんっ、三津五郎兄ちゃんっ。
三津五郎　なんな竹之丞っ。
竹之丞　おりゃっ、名前負けしとらんかっ、兄ちゃんっ。
三津五郎　（感窮まって）んにゃ、竹之丞、んにゃっ。
竹之丞　兄ちゃんっ、三代目三津五郎兄ちゃんっ。
昭子　あんたらあっ、死ぬっちゅたろがあっ。うちに命くるるっていうたろがあっ。
三津五郎　（あわてて）やるってばっ、死のでっ、死のでのっ、初代竹之丞っ。
竹之丞　いつでん死ぬるよ、昭子さんっ。
保造　ふんっ、萬屋の、乾物屋の倅がなんばしのごと、おくんちに興奮していきのぼせよる。

三津五郎　（聞こえた）わりゃっ、なんちゅうたっ、なんちゅうたかっ、わりゃっ。こん松浦党の末裔萬屋三津五郎ばっ、わりゃっ。

保造　乾物屋じゃろがっ。

三津五郎　そりゃっ、世を忍ぶ仮の姿じゃろがっ。

保造　死ぬまでのっ。

三津五郎　わりゃっ、なおれっ。そけえなおれっ。

昭子　うだうだぐじえらんで、ほりゃ、いきんしゃいってばっ。いかんねっ。

竹之丞　兄ちゃんっ、三代目三津五郎兄ちゃんよいっ。

三津五郎　なんなっ、初代竹之丞っ。

保造　おうおう首ふって、このう。ぬしどまあ、日増しにはでになんのうっ。

三津五郎　だぼっ、世が世なら、わりゃっ。

竹之丞　兄ちゃんっ。

三津五郎　（保造へ）知らんじゃろがっ、わりゃっ。こん海にっ、まあだかすかじゃあるが万葉のにおいの残っとるこん海にっ、倭寇の装いばつけて墨塗りの八幡船でっ、遠くあん大陸沿岸までも遠征したっつおうっ。乾物屋じゃあるばって、松浦水軍倭寇の末孫ぞっ、おりゃっ。

保造　海賊かっ。

三津五郎　水軍っていよるじゃろがっ、わりゃっ。

保造　いちいち見得ば切らんっちゃよかじゃろがっ、このっ。
三津五郎　なんてえっ。
保造　いちいち首ばふるなって、ずんだれっ。
昭子　（日本刀びゅんと振って）ええいっ、うじゃうじゃうじゃうじゃ、やじえらしかあっ。なんな三津ちゃんっ、やるとなっ、やらんとなっ。
三津五郎　（驚いて）やるってば。
昭子　（日本刀ぶんぶん振って）したらやらんねっ。ほりゃっそりゃ、あんゴーストタウンばやっさもさらにやっちゃらんねっ。ほりゃっ。
三津五郎　ばって、ばっての。
昭子　やぐらしっ。なんてろかんてろごまくらかしてっ。よかねっ、あんふうけもんのっ、なぐり込むっていよっとよっ。こん松浦になぐり込むっていよっとよっ。くやしかじゃなかねっ。なめられとっとよっ。　やっちゃらんねっ、合戦しちゃらんねっ。
保造　じゃすっ、すこんとやっちゃれよいっ。侍じゃろがっ、わりゃ。
三津五郎　そりゃ、曾じいまでじゃろがや。おりゃ、侍ちゅうても民間人の、庶民の、乾物屋で。してっ。
保造　蒙古襲来じゃろがやっ。松浦党じゃろがやっ。倭寇じゃろがやっ。えっ乾物屋っ、やっちゃれよいっ。

三津五郎　そりゃそり、こりゃこりじゃろがやっ、なんもおいがっ。
昭子　こんだぼはぜっ。命くるるっていうたろがっ。くやしゅうはなかとなっ。なんが松浦水軍の末裔なっ。
竹之丞　（むっとした）やっちゃろやっ、兄ちゃんっ。こぎゃんなめられて黙っとっとか。腐っても玄海灘の鯛ぞっ、兄ちゃんっ。やっちゃろやっ、やっちゃろじゃなっかあっ。昭子さん、おりゃやるぞっ。
三津五郎　おてつけっ。若いっ。そりゃ青かぞ、発想のっ。ぬしゃ、こりゃっ。
昭子　ぐじえりんしゃんなっ。じゃろがっ、こっちからなぐり込まんねっ。（保造に日本刀握らせて）ほりゃ、いってきないっ。
保造　おいがあっ、おいがやっ。
昭子　なんねっ、いやっちゅとねっ。
保造　ん、んにゃっ。ばって、こ、こん制服にっ、こん刀はっ、のっ、ちょこっと、バランスのっ。
昭子　よかやなかねえ。ようとれとるバランスの。ねえ、アンバランスに。よかよう。
保造　（かっとして）なあしっ、なあし警官はおちょくりの対象にしかならんとかっ。（泣いて）昨日もゴーストタウンでおちょくらるるだけおちょくられて。やっとこいしょずらかって。ばって警察日記にゃ書けんじゃろがやっ。昭子さん、ぬしゃ電話じゃここで一人で待っとるごと

いうたろがやっ。くそっ、独身の警官の弱点ばなぶってっ。くそっ。

大徳　なんてっ、ぬしもなっ。

三津五郎　なんてっ、ぬしもっ。

竹之丞　ありゃ、兄ちゃんもなっ。

昭子　なんがねっ。そぎゃんどもいわにゃ集まらんじゃろがっ、ぬしどまあっ。

三津五郎　そりゃそりゃなかじゃろがやっ昭子さん。おりゃ、侍ぞっ。末裔ぞっ。玄海灘の鯛ぞっ。こぎゃん庶民といっしょくたんじゃたまらんぞっ、そりゃっ。

保造　首ばふるなって、いちいちっ。

昭子　あんたらあっ、うちにさかろうたら、どぎゃんなるか知っとるっちゃろねっ。こりゃ、保やんっ。

保造　おどしよるっ。こりゃおどしよるっ。

昭子　うちとやるときなんちゅうたっ、えっ。うちの股になんちゅうたっ。

保造　（あわてて）わっ、が、がなるなっ、はしたなかっ。

昭子　なんっちゅうたねっ。

保造　しってばっ。ああっ、汗のぞうって。んにゃ、あった冷やしゅうして。

昭子　したならしたごとはっきりしんしゃいっ。

三津五郎　なんばっ、なんばしたとなっ。

昭子　なんばって、なんじゃろがっ。なんばいよっとっ。
三津五郎　なんばって。あいばかっ、したとかっ、保造っ。
竹之丞　あいって、あいなっ、あのあいなっ。したとなっ、保やんっ。独身の警官のっ、したとな保やんっ。
昭子　（やさしく）したもんねえ、保やん。ねえ保やんしたよねえっ、あんねえっ。
保造　いうなっ。おいの人格のいやらしゅうなるっ。……した、たまらんじゃったけんでっ、独身けんでっ、ばってっ。
三津五郎　わりゃ、おいのおなごばあっ。
竹之丞　なんなっ、兄ちゃんっ。おいのおなごにおいのおなごっちゃ、なんなっ、兄ちゃんっ。
三津五郎　なんかっ、そりゃっ。
昭子　うちにしゃぶりついて股なめくりまわして、なんっちゅうたっ、保やんっ。
保造　あっ、ぐっ。
大徳　なんなっ。
保造　のみ込んだと、言葉ばっ。
昭子　どぎゃんしたっ。いうたろが、なんでんするっていうたろがやっ。やらせてくるれば死んでんよかって、いうたろがやっ。
保造　（かっとして）いうじゃろがっ、男はっ、やるまえはっ。のっ、大徳っ。そいが男ぞ、の

っ。

大徳　（むっとして）ぼくは、その時しゃべりませんっ。

保造　なんがっ、しゃべらんっ、ひと言もかっ。

大徳　ないっ。

保造　しゃべらんでなんばしょっとか、ぬしゃっ。あっ。（想像して）……くう、想像すっと、いやらしかのう、ぬしゃっ。

大徳　想像におまかせしますっ。

保造　（三津五郎、竹之丞へ）すずしく、このうっ。いやらしかのう、想像してんないっ。いやらしかのう。（二人の目にはっとして）なんか、なんかっ、そん犯罪者の目はっ。

三津五郎　わりゃっ、おいのおなごばあっ。

竹之丞　わりゃっ、おいの。（はっと気づいて）兄ちゃんっ、いまなんっちゅうたっ。

三津五郎　ほたゆんなっ、だぼっ。

竹之丞　したとかっ、兄ちゃんもっ。

三津五郎　なんてっ、ぬしゃ、ぬしもしたとかっ。

保造　なんてっ、ぬしもしたとかっ。

大徳　なんちゅうっ、なんっちゅう。日本の教育のっ、日本の道徳のっ。

昭子　（大徳へ）あんたもしたじゃろがっ、短距離でっ。

大徳　短っ、あっ、ぐっ。
昭子　なんなっ。
大徳　（言葉をぐっとのんで）ぐって、言葉ばのみ込んだ。
保造　ほう短距離か、ぬしゃっ。
大徳　（ふてて）そうですっ、短距離です、物も時間も。ぼくは、ぼくはいやらしくないのです、ぼくはっ。
昭子　いうたら兄弟よっ、あんたらあっ。
三津五郎　そりゃ、なかじゃろがっ。ぬしゃ、ぬしゃっ、そいでんおなごかっ。
昭子　ああらっ、おなごっちゃこうしたもんよ、知らんかったとっ。
竹之丞　昭子さんっ、ぬしゃ、ぬしゃっ。んにゃ、ちゃう、おなごはちゃうぞっ。おいのおなごのイメージはっ。
昭子　おなごっちゃこうしたもんっ。いうかいわんか、やるかやらんかのちがいだけたいっ。
三津五郎　な、なんちゅう単純論理ばっ、ぬしゃっ。
昭子　そいがおなごのかわいかとこよ。
竹之丞　昭子さんっ、少年ばだまくらかしたなっ、もてあそうだなっ。抗議しちゃるっ、少年の潔癖さで抗議しちゃるっ。昭子さん、ぬしゃっ、ぬしゃ好きっていうたるがやっ。あんたも好きってっ、あぎゃんにっ。あんたもって、あんたも、も、あんた、が。あっ。（泣いて）先生

っ、もとがの文法のおいば傷つけよるっ、先生っ。

大徳　泣くなっ、のっ。形容動詞活用表のごたあいかんとよ、人生はっ。

昭子　泣きんしゃんなっ。だいでん好いとっとよ。うち、おおらっかとよ、心の、ねっ。うちゃ、松浦のジャンヌダルクよっ。

大徳　……ひったまがるのう、ぬしゃっ。歴史上の人物か、ぬしゃっ。そいも世界史の、ひったまがるのう。

昭子　やぐらしっ。ああてろこうてろ、うだうだぐじえってだまくらかしんしゃんなっ。死ぬっちゅたろがっ。あんたらっ、死んでんよかってむしゃぶりついたろがやっ、あんたらあ。今日死んでみせんねっ、あんゴーストタウンになぐり込んで、まとまってうちと心中してみせんねっ。

保造　心中ばっ、まとまってっ。

昭子　うちゃぐらぐらすっとよっ。なんでんかんでん和子ねえちゃんっ、和子ねえちゃんって。うちゃどぎゃんなっと、うちゃっ。

保造　そ、そいけんって、なんものうっ。

三津五郎　おてつけっ、ようと考えてんろっ。そりゃ死ぬばい。ぬしとなら心中もしゅうっ。ばって、あてつけで心中はっ。のうっ。

竹之丞　（怒っている）おりゃよかよっ。死んじゃるよっ。焼けのやん八じゃからっ。こんおい

の疎外感なあ、やがて自己破壊に進むプロセスじゃから。おりゃ死んじゃるよっ。おう死んじゃるよっ。

昭子　純ねえ、男らしかっ。

三津五郎　こりゃ竹之丞っ。だまさるんなっ。

竹之丞　（興奮している）兄ちゃんっ、ぬしゃきたなかのう。なんちゅうたっ、えっ、えってばっ。ＮＨＫの黄金の日日に興奮してなんちゅうたっ。松浦党の末裔倭寇の末孫。生涯におなごは一人、角隠したおなごだけって、いうたるがやっ。どこがこん人に角の隠れとんなっ、こって牛のごとこぎゃんしとるやっかっ。

三津五郎　おのれっ、元服前がっ。

保造　首ばふるなっちょろがっ。

竹之丞　そうなっ、そうなっ。ぬしゃこん人ば嫁ごにすっとなっ、そうなっ。

三津五郎　なんてっ。こいば嫁ごにってっ。ぬしゃっ、ぬしゃっおいの一生ばめちゃくちゃにすっつもりかっ、ぬしゃっ。

竹之丞　したらっ、なあししたなっ。なあしっ。

三津五郎　青年の好奇心じゃろがっ、このっ。

保造　やめれっ、やめれってばっ。（三津五郎へ）ぬしゃ、首ふっとは癖かっ、そりゃ。

三津五郎　こうせんば言葉のでてこんとっ。

保造　時代劇の後遺症ぞ、そりゃっ。
大徳　……ああ、まともな人間に会いたかにゃ。
保造　（大徳を殴って）こんだぼっ。だいたいぬしが祝賀二郎に拉致されたとがそもそものこん事件のハッ端じゃろがっ。
大徳　なんてっ。
保造　ハッ端じゃろがっ。
大徳　発端じゃろが。
保造　（大徳を殴って）言葉でごまかすなっ、ずんだれっ。ハッ端は松浦方言ぞ、ずんだれっ。
大徳　はあ、新しか方言なっ。
保造　やぐらしっ。まあ質屋の捨吉てろ、働かずの吾一てろのって、いきのぼせてっ。ひょんきんはあん素好よっ。サーカスの銭のなかっ、保やんいっちょ警官のアルバイトばって。
昭子　（きっと）和子ねえちゃんなあ、おるっちゃろがっ、あすけえっ。
保造　さあて、どうじゃろかいっ。
昭子　（きっと）おるくさあ。風のごうごろごろって吹くとこが好いとっとよっ。屍体のにおいのすっとこが好いとっとよ。ここで生まれとらんっちゃからっ。満州で生まれとるっちゃからっ。（満鉄へ）もうっ、そんハモニカやめんしゃいっ。こりゃっ、やめんしゃいって、満鉄兄ちゃん。

竹之丞　ぴたっていっしょに止まるっちゃろかい、息の。心中ちゃっ。
昭子　知らんっ。ぐらぐらするっ。ぐらぐらぐらすっとよっ、ねえちゃんのあん表情にうちゃぐらぐらすっとよっ。なんでん知っとるごと、なんでん見透したごとっ。ハモニカやめんねっ。
大徳　（満鉄を見て）なんな、ありゃ。
保造　ぼけよっ、ぼけっ。うてあうなっ。
大徳　ああ、まともな人間に会いたかにゃ。
保造　（大徳を殴って）こんだぼっ。まっ、ままっ、よかっ。おくんちぞっ、のう、サーカスぞっ。なんもかんもほたくりいっちえて呑もやっ。のっのっ。まっ、若き日の想い出ちゅうことで、のっ。はいっ、おしまいっ。
昭子　（きっと）どぎゃんしてでんやらんっちゅうとねっ。うちから逃ぐるつもりねっ。よっしゃっ、よかっ。あん漁協のマイクで録音したテープ流しちゃるっ。
保造　（ぎくっとした）録音っ、なんのっ。
昭子　あん声のっ。
保造　声っ。
昭子　うちの股にむしゃぶりついてひいひいいうてぐじえった声たいっ。
三津五郎　声っ、あん声なっ。
昭子　そん声よっ。

保造　声ばあ、録音っ。
三津五郎　なんちゅうことばあっ、ぬしゃっ。
昭子　うちん部屋にきてんしゃいっ。編集済みの録音のっぴっしりあるとよっ。なんなら順ぐり聴かせちゃろかっ、あんたらあっ。ボリュームがんがんにしてっ。
保造　やめれっ。ああっがんがんするっ。独身の警官のっ、立場のうっ。
三津五郎　ぬしゃっ、ぬしゃ昭子っ。よかあっちゅうてっ、よかようっちゅうて、あぎゃんにっとろくるごたる声ばあっ、ぬしゃっ。いつ録音ばっ、ぬしゃっ。
昭子　だぼっ。あんたがよかなっよかなってしつこかけんでっ、よかっていわにゃしょんなかじゃろがっ。よかよかいいながら録音したと。気いつけんしゃい、おなごはいつでん演技するっちゃからっ。こんへたっ。
三津五郎　へたっ。ああっなんちゅう残酷なっ。おいの男のちぢこまるっ。干涸びるっ。乾物になりよるっ。だいと比較してへたっちょっとか、ぬしゃ。
昭子　竹之丞たいっ。
三津五郎　竹之丞っ。ああっ、萬屋の三代目の、長男の、プライドのっ、ぶるぶるするっ。
保造　しもたっ、しもたよいっ。録音ばっ。ああっ、大徳っ、どぎゃんすんなっ。
大徳　ぼくはその時しゃべりませんっ。
保造　ついとるのう、ぬしゃっ。

昭子　（きっと笑って）どうしたっちゃ、どうなるもんじゃなかとよっ、あんたらあっ。あんたらあっ、うちの兵隊よっ。死ぬまでうちの兵隊よっ。うちゃ松浦のジャンヌダルクよっ。やりたかときゃいつでんきんしゃいっ。

竹之丞　（太鼓叩いて）やろでっ、やろでえっ。兄ちゃんよいっ、合戦やっちゃろでえっ。

三津五郎　ええいっ、もうっ。どうなとなれっ。どまぐれちゃるっ、やっちゃるっ。

昭子　よっしゃ、よかよかっ。こりゃ保やんっ。

保造　なあんか、こぎゃんなる気のしたと。だいなっ、こん松浦でいっちゃん尊敬さるるたあ、警官とガッコの先生って、すらごとばあっ。

大徳　さっ、その問題でござすっ。六三制のっ、つまり昭和二十年の八月の十五日、日本のいちばん長い日のっ。

保造　黙っとれっ、だぽっ。なんか、一日のなごうなるにゃ、またっ。

三津五郎　竹之丞っ、兄としてっ、萬屋の総領としてっ、おりゃぬしば軽蔑すっぞっ。

竹之丞　よかよっ。軽蔑ちゃ嫉妬のことじゃけんっ。

三津五郎　嫉妬ばっ、長男のおいがあっ、次男のぬしにいっ。しらっと、このうっ。なんなっ、そん見下したごたる目はっ。

大徳　（保造へ）あんのう。

保造　なんなっ。

大徳　おいもやることになっじゃろのっ。
保造　（かっとして殴って）決まっとるじゃろがっ。ぬしゃ、やらんと、このうっ。あっことなかこと教育委員会にしゃべくりまくるぞっ、このうっ。
昭子　よっしゃっ、決まりっ。動乱よっ、クーデターよっ。いこでえっ。

昭子、竹之丞走る。しぶしぶと保造、大徳、三津五郎が……。

保造　サーカスの、遠うなる。
昭子　（むっとして）なんばおそるおそる歩きよっとねっ。そぎゃん歩きじゃゴーストタウンに着く頃にゃ日の暮るる。ほりゃ、ほりゃっ。

昭子、日本刀で保造、大徳、三津五郎の尻をひっぱたいて誘導する。

西浦のおばば　あいたこりしょ、どっこいしょ。習字の清書のよこっちょに、こもっちょうに、明治なん年なん月って書くたあ、永遠（とわ）のさだめのごとおもっとった。明治、ずっしりして、よかあ字画じゃござっせんな、なあ。筆にたっぷりの墨で、明治。ない、ほんによかあお日和で。日輪のまんまるうに。昔あ、こん海のずううっとあっちまで、壱岐、対馬ばずううっと通じて、

陸続きじゃったってにゃあ、ほんなことでしょうかい。こぎゃんして朝はように夜のにおいば透かして観っと、そうのごともある、そうのごともなか。馬じゃったってっしょうなあ。大正てなあどうも書きえん。なんかはずかしゅうして。なあしかにゃあ、はずかしかにゃあっておもたら大正なあ消えた、すうぐ。大正もはずかしかったっちゃろかい。昭和になって、昭和になって習字ばやめた。たっぷりの墨で、昭和って書くと、黒から赤う血のにじむごたる気のして、えすか。やめた。やめたら、ほい、こうなった。……昭和の次ば、書きたかにゃあっておもよる、たっぷりの墨で。（ほっほっと笑って）こぎゃんなっても、わがだけは死なんつもりでござす。わがだけは死なんつもりで、いっぴゃあ死んで。……あきらめきれん、どぎゃんしてでんあきらめきれんって、あきらめて、ほい、こうでござす、のう。あっちからも、こっちば、こぎゃんして観よらす人のおらすっちゃござっせんじゃろかい。（海の彼方へ）おういい。あっちから、だいか手えばふりよらっさんじゃろかい。死んでよかあ人あ死なんで、死なんでよかあ人あ死んで。あいたこりしょ、どっこいしょ。うちば喰ろうてくれたら、どぎゃんうれしかったろう。生殺しにされてしもうた、とうと。ゆるしとるとよ、もう、ぼってゆるさんと。

満鉄　和子よい。

西浦のおばば　ない。

満鉄　ひもじゅうはなかか。

西浦のおばば　んにゃ。

満鉄　待っとれよい。こん海のむこうに帰あったら、うまかもんばいっぴゃあ喰わせちゃる、の。
　泣くなよい、頼むけんで、泣くなよい。泣くと殺さるる。黙っとれっ、の。
西浦のおばば　ないない。
満鉄　うじゃうじゃおっとよっ。ここにゃ、人ば殺した人のうじゃうじゃおっとよっ。
西浦のおばば　酔うとるな、満鉄。
満鉄　酔うとるっ。
西浦のおばば　なんば見たな。
満鉄　おいのまんじゅば、とって喰ろうたおやじば見た。
西浦のおばば　ぬしが喰われんだけよかったたいっ。
満鉄　じゃろか。
西浦のおばば　じゃろっ。男の目の暗うなっと、なあしぱあっと明りゅうになるっちゃろかい、
　なんもかんも。ぬしが生まれてすうぐ、あん人あ、ぬし一人連れて満州に。帰あてこらしたら、
　あんた。あん人あもうあん人じゃのうなっとった。血のにおいのするあん人のうしろに和子の
　おって。うちゃ、なあんか和子ば見っとのはずかしゅうして。ゆるしとるとよ、もう、ばって
　ゆるさんと。
満鉄　泣くとなっ。
西浦のおばば　涙のなかっ。

満鉄　泣きゃあよかじゃろが。やっさもさら泣いてんないやあ。おくんちぞ、海のみそぐとばい。
　なんでんかんでん洗い浚い吐いてんないやあっ。
西浦のおばば　酔うとるな。ぬしが吐いたらどぎゃんね。
満鉄　なあし出刃ば研ぐとな。夜中になあし、出刃ば研ぐとか。
西浦のおばば　あん世で刺しちゃるっ、抉っちゃるっ。
満鉄　だいばなっ。
西浦のおばば　あんたの親父ばっ。
満鉄　母ちゃんっ。
西浦のおばば　うちにゃ他人。和子なあ。（懐から出刃包丁を出して）こいじゃのうてにゃ死ねんっ。カミソリじゃあ死ねんっ。カミソリなあ人の命の命までも殺すほどのもなあござっせんっ。ぼちぼちいこか。
満鉄　母ちゃん、昭子ば。
西浦のおばば　ほっぽほうらいやって、こっけんころりん死んだ人なあよかの、ほんに。なんの、じいっとしとらんね、のう満鉄。じいっとしとれば人なあ忘るる。（ほっほっと笑って）一生ばぴしっとけじめつけて死んだ人あおらんけんで。
満鉄　昭子は、知っとるっちゃなかな。
西浦のおばば　そりゃ、知っとるじゃろだい。おなごは血で考ゆる。昭子からにゃ和子のにおい

のしよる、ぬしのにおいのしよる。して死んだあん人のにおいのしよる。なりゆきたい、どうなるもんな。あいたこりしょ、どっこいしょっ。

〝わあっ〟の声。三津五郎、竹之丞、保造、大徳が逃げて……。昭子の日本刀に威されて神主の恰好の素好がいた。

素好　わあっ、しもたっ。

保造　わあっ、ひったまがるっ。

三津五郎　わあっ、だいなあっ、だいなあっ。こん松浦党の末孫三代目三津五郎っ。きないっ、一騎打ちできないっ。

素好　なんななんなっ、わいどまあっ。

竹之丞　素好ちゃんっ。

保造　だぼはぜっ、こんおごじえっ。

大徳　素好っ、ぬしゃ人生に論理性のなさすぎやせんかっ、このっ。

素好　ほっとけっ。

三津五郎　おのれっ。きないっ、一騎打ちっ。

素好　首ふるぞっ。

三津五郎　ふらんっ

素好　んにゃ、ふるっ、ぬしゃふるっ。ほりゃふるっ。

三津五郎　（堪えていたが、ついに首をふって）ぐぐうっ、くそっ。

素好　のっ、のっのっ。

保造　こんひょんきんっ。なんなっ、素好っ。

素好　アルバイト、神主のっ。

保造　アルバイト、神主のっ。

大徳　アルバイト、神主のっ。学生がっ、アルバイト、神主のっ。めっそうなっ。

素好　しょんなかじゃろがっ、ボランティアはノーギャラぞっ。時間ぞっ、時間ぞっ、サーカスの時間ぞっ。サーカスの銭、神主のアルバイト。んにゃ、いっそがしゅうしてっ。おう、面浮立の舞台のっ。今夜はここもにぎあうじゃろっ、うきうきすんのっ。おっ、こりゃにぎにぎしく乾物屋のチャンバラ兄弟っ。なんごとなっ、えっ、なんかあっとなっ。んにゃっ、いっそがしゅうして、いっそがしゅうしてっ。ありゃっ、保やんもっ。まっ、おきばりまっせっ。そいじゃっ。

保造　すっとぼけてっ、このうっ。

竹之丞　こりゃっ、素好っ。

素好　なんてっ。（竹之丞をぎらっと睨んで）なんてなっ、素好ってなあ。

竹之丞　（ぎくっとして）そ、そぎゃんすごんだっちゃえすなかけんでっ。
素好　ぬしがおいば呼び捨てってなあっ。こりゃ竹之丞っ、ぬしゃこまっちょか時からいつでんそうっ。兄ちゃんのおっと強かとよっ、のっ。チャンバラでんおりゃ斬られ役ばっかし。よっ、ばってなむんなようっ。昨日のスターが今日もスターかっ、ずんだれっ。
竹之丞　兄ちゃんっ、よたりよるっ。素好ちゃんのよたりよらすっ。ぼたうちくらわして、兄ちゃんっ。
三津五郎　ころっころ変るなっ、このっ。わがでやれっ、わがでっ。
素好　（凄んで）泣かすぞ、このうっ。まっ、今日は神に仕ゆる身いせんで。ばって明日、ぬしゃガッコでっぽたうちくらわしちゃる。昼休みに部屋にこいっ、わりゃっ。空気投げやっちゃるけんっ。
昭子　こりゃ、素好っ。なんば悪さしよっとなっ、素好っ。
素好　んっ、だいなっ。またおいば呼び捨てにっ。くらわすぞっ、このっ。ありゃ昭子さんっ。
昭子　素好っ、なんのありよるっ。いうてんないっ。
素好　あっ、んにゃ、こっけんころりん忘れとったっ。行列ばっ、御神輿の行列ばっ。行列のお祓いばっ。御祓いの露払いばっ。おりゃ苦学生けんでっ。んにゃっ、姿三四郎はきつかあ。したらっ。
昭子　いうちゃろかっ。

素好　なんばあっ。
昭子　あいばあっ。
素好　ああっ、いいなんないっ。いうたらいけんっ。
昭子　おろうじゃろかっ。
素好　いけんって、こりゃっ。
保造　（喜んだ）ほっ、ほっほっ。ぬしゃっ、こりゃ素好っ。ぬしゃこのっ、あいじゃろっ、録音じゃろっ。えっ、素好っ。やったなっ、ぬしゃ。
素好　なんばっ。
保造　ぐじゅぐじゅばっ、このうっ。
素好　ぐじゅぐじゅばあっ。すっかあっ、苦学生のすっかあっ。姿三四郎のすっかあっ。
昭子　しとらんよっ。ねえ、素好っ。
素好　あっ。
昭子　するまえに終ったと。
素好　ああっ。
保造　（素好へ）ほうっ三四郎のやっ、するまえにやっ、終りってやっ。短気のう、ぬしゃっ。
　空気投げかっ。
素好　そいがおいのよかとこじゃろがっ。

保造　こまっぞう、ぬしゃっ。こいから。
素好　（かっとして）若さゆえじゃろがっ。（竹之丞へ）ありがちぞっ、のっ。
竹之丞　おりゃ、先天的にプロじゃからっ。のっ、兄ちゃんっ。
三津五郎　やぐらしっ。
素好　（竹之丞へ）あっ。ぬしゃっ、投書すっつもりじゃろっ。新聞部にっ、ぬしゃ。噂あれこれにっ、なんなっ、そん目はっ。
竹之丞　同情しとっと。
素好　なんにっ。
竹之丞　ぬしの一生にっ。
素好　あっ、あっあ。ああっ、ぬしどまあっおいが出世して、して、テレビのモーニングショーで新劇の女優と婚約ば発表して。して、なつかしの御対面でっ、あっ、こいば、こん若気のいたりばっ、ばらすつもりじゃろっ、ぬしどまあっ。全国ネットワークにっ。
保造　そうゆう計画かっ、ぬしの人生なっ。
素好　決まりきっとるっ。おりゃ、ぬしどんのツラしみじみ見て、はてどなたでしたなって、いうちゃるけんっ。いうちゃるけんのっ。東京弁でいうちゃるけんのっ。泣くなっ、ぬしどまあっ。（流石に気づいて）あっ、誘導尋問ばっ、ぬしゃっ。
保造　たいがいこぎゃんとが犯人ぞっ、推理小説じゃっ。

大徳　た、逮捕しとけっ、いまからっ。
三津五郎　おっとろしかのう、雑種はっ。
素好　ええいっ、寄ってたかって、このうっ。そぎゃんしとれっ、そこでそぎゃんしとれっ、いんまにくびり殺さるっちゃからっ。風ぞっ、散弾銃ぞっ。神原組に喧嘩状ぞっ。なあんも知らんでほたえなっ、あほたれっ。
昭子　喧嘩状っ、神原組にっ。
素好　おうよっ。ぬしどまあ、チャンバラしとれっ。男対男ぞ、だぼっ。
昭子　だぼっ、男えすがっておなごの生きられるっか、だぼっ。こっけんころりんやっちゃるけんっ。なんのどうなっとるか、いうてんないっ。
素好　ぎゃあなかおなごのっ。ぬしゃようそいで和子さんの妹のっ。知っとっか、わりゃっ。わりゃのっ、生まれてぴいぴいいよった時にのっ、ぬしんツラのあんまし不細っかけんで、おふくろさんの自殺しかけたとぞっ、だぼっ、親不孝もんっ。
昭子　わりゃっ、知っとるとかっ。
素好　しかもっ、しかもぞっ。産婆さんのひったまがって、ぬしんツラぐしゃって踏みつぶしたとぞっ。だぼっ。有名か話ぞっ。はたして、ぬしゃ生きる資格のあっとかっぬしゃっ。面浮立お面なしで踊れっ。こんおごじえっ。死ねっ、神のお告げだっ。死ねっ、生まれたことを恥じろっ。

保造　（感心して）いうのう、ぬしゃ。
素好　とうと、いうちゃった。いうちゃったぞ、おりゃっ。いつかいうちゃろっておもとったっ。
　すっとしたっ。ああっすっとしたっ。
三津五郎　（素好へ）あほたれがあっ。知らんぞっ、おりゃ知らんぞっ。
竹之丞　知らんぞうっ。
昭子　ああ血のすううっと青ざめたっ。気持のよさあっ。さてっどぎゃんしちゃろうかいっ。（日
　本刀びゅんと振って）どぎゃんすればすっとするじゃろかいっ。
素好　（ぎょっとした）なんがっ。こりゃ神のお告げじゃけん。こ、こりゃっ保やんっ、国家権
　力ば介入して仲立ちしておくれっ。おてつけっ、昭子さんっ。おりゃっ、未成年けんで、まあ
　だ自分の言葉に責任ば持ちきらんとよっ。こりゃおてつけっ。
昭子　（半狂乱である）しっかと押えつけないっ、あんたらあっ。（日本刀びゅんと振って）腕
　一本たたっ斬っちゃるっ。
素好　（保造へ）ひっ、やるぞっ。コンプレックスで固まっとる、こんおなごはほんなこてやる
　ぞっ。コンプレックスもろにやるぞっ。ほりゃコンプレックスの洋服着て動きよるっ、あっ。
竹之丞　そりゃタブーってばっ、このっ。
素好　しもたあっ。
昭子　（狂乱である）ひんむけっ。素好ばひんむきないっ。チンポの毛剃っちゃるけんっ。

素好　わあっ、やめんなっ。ようよ生えそろうたとにっ。こりゃ保やんっ、警察じゃろが。こん虐殺ば、こりゃっ保護ばっ、こりゃっ、おいば保護しておくれっ。

保造　なんがっ、このっ。

昭子　押えつけないっ。テープよっ、録音よっあんたらあっ。

素好逃げようとするが三津五郎、竹之丞に制される。あわてた素好どんっと保造にぶつかる。〝とうっ〟と背負い投げに保造がそれを決めた。

大徳　あっ、らあっ。

保造　警察学校出身ですっ。

素好　（押えつけられて）わりゃっ、保造っ。神に対してっ、わりゃっ。

昭子　よっしゃっよっしゃっ。チンポだしないっ。

素好　（必死である）やあっ、やめんなっ。二年生にして番長ちゅう偉業ば成し遂げたおいばあっ。こりゃっ。

昭子　黙っとれっ。ぬしゃっ捕虜にしちゃるっ。

素好　捕虜にっ、おいば捕虜にってかっ。

昭子　おうよっ。すっ裸にひんむいて、荒なわでくびって、ゴーストタウン引き摺り回しちゃる

っ。

素好　ぬしゃっ、ぬしどまあっ。

三津五郎　おとなしゅうしとけっ。のっ、毛はすぐ生ゆるけんでっ、のっ、のっ。

素好　だぼっ。水にも湿さんでっ、日本刀でっ。ひりひりすっじゃろがっ。こりゃっ、昭子っ、ぬしゃっチンポのなかもんせんっ、コンプレックスでチンポにあてつけよっちゃろがあっ。

竹之丞　動くとチンポのあぶなかよっ、素好ちゃんっ。

素好　やめてっ、やめておくれまっせっ。竹之丞、いじくんなっ。

昭子　したら、いうてんないっ、いうてんないやっ。

素好　な、なんばなっ。

昭子　神原組とどうするってなっ。

素好　そいけんっ、喧嘩ばっ。ゴーストタウンの解体で、今日喧嘩ばあっ。

昭子　やっぱ、やっとねっ、いよいよねっ、え、和子ねえちゃんのおっじゃろがっ。こりゃっ、このチンポばっ。

素好　やめっ、まあだ新品ぞっ。やめえっ、おらすっ、おらすよっ。

昭子　どけえっ。

素好　廃坑にっ。

昭子　じゃろがっ、あてつけがましゅうにっ。なんなっ、ねえちゃんなあなんばしよっとなっ。

素好　じいっとうずくまって、闇に唄いよらす。

満鉄のハモニカがぴたっと止んだ。

素好　肥前松浦兄妹心中。

満鉄、静かにハモニカを吹く。〝肥前松浦兄妹心中〟。

闇。遠くハモニカの〝肥前松浦兄妹心中〟のメロディ、和して和子唄う。〝ううっ〟と声にならない声を漏らして祝賀二郎、背中一面刺青に脂汗が浮いている。闇のずっと遠く高くにぽっかりと廃坑入口満月のように、さらに遠くに……。

祝賀二郎　……そいからあ、いつでん、いつでんねえちゃんのことばあ、おりゃ。

和子　そうね。うちゃあたあだ、あん日のことばあ……うちとお兄ちゃんのこん松浦に着いたあん日のことばあ想いだして。あんたなあ、お兄ちゃんのごたった。倭子ちゃんなあ、うちのごたった。やっぱ雨やったとよ。

祝賀二郎　なあし、心中したと。なあし、ねえちゃん。

和子　なあしじゃろかねえ。おなごなあ、死んでんよかって思う時のあっとよ、おなごなあ。いやあ、あんた、脂汗のびっしり。神原の満さんなあ、ここの人じゃなかとよ。

祝賀二郎　ねえちゃんっ、えすかっ。

和子　昭子生んで、ぞくってしたとよ。兄ちゃんの、兄ちゃんの、殺すかって。殺して死のかって。死んどけばよかったとよねえ。なんもかんも忘れとうして、えすうして。したら満さんのおった。

祝賀二郎　おいでん、死ぬるっ。ねえちゃんとならっ。

和子　こがんおなごばいっ。

祝賀二郎　よかっ。

和子　笑わるるばいっ。

祝賀二郎　だいにっ。

和子　なあし、死ぬ気になったっちゃろかい、満さんなあ。

祝賀二郎　……そぎゃんおなごよ、ねえちゃんなあ。おいが死んだら、帰ゃあってくるるじゃろ、倭子なあ。のう、ねえちゃん、帰ゃあってくるるじゃろう、倭子なあ……。

和子　脂汗のびっしり。

祝賀二郎　……帰ゃあってくるるじゃろう、倭子なあ。

和子　（祝賀二郎の背中に頬をつけて）つんたさあ。あんたの背中の、ひんやりしとる。なあ、

あんた。死んだら魂なあ生まれたとけえ帰ゃあるってなあ、ほんなことね。

祝賀二郎　ねえちゃんっ。

闇に二人想う。

しゅるるるるうぽうんと花火。どぶんっと波。〝きゃあっ〟と良子の声。境内の裸舞台へ髪振り乱し、カミソリ片手の良子駆けあがる。追って上半身刺青の悪の限りを尽し三郎が対立し占領した。その剣幕の凄さに若者たち境内のあちこちに散る。

良子　（首にカミソリを当てて）そぎゃんことばしてんしゃいっ。うち死ぬけんでねっ、兄ちゃんっ。

三郎　生むっちゃなんないっ、良子っ。人が人の子ば生むっちゃなんないっ。どぎゃんことなっ、良子っ。

良子　そいけんって、なあしそぎゃんことばあっ。

三郎　こっから見ゆるかっ、ぬしのふるさとのっ、良子っ、良子よいっ。もう、おいたちゃっ。

良子　んにゃっ、生んじゃるっ。どぎゃんことばしたっちゃ、生んじゃるけんっ。あん廃坑で、たった一人ででん生んじゃるけんっ。

三郎　男じゃったらどぎゃんなるなっ、よっ。おなごじゃったらどぎゃんなるなっ、よっ。
良子　まっと、まっといたぶればよかっ。うちばまっといたぶればよかっ。動きんしゃんなっ、
　お兄ちゃんっ。
三郎　のうっ、良子よいっ。こん裏の、薄ぐろう苔の光って、清水の涌きよったろがっ。山椒魚
　の一匹じっとしていつでんおった、のうっ。ありゃ生きとるの死んどるのって。覚えとるなっ。
良子　よう喧嘩に負けて、血ばこびりつかせて、泣あて、兄ちゃんなあツラごしごし洗いよった。
　いんまにみとれっ、いんまにみとれって。うちゃ兄ちゃんのいじらしゅうてっ。
三郎　ぬしん子のそぎゃんなっとぞっ。
良子　ならんっ。
三郎　だぼがあっ。
良子　兄ちゃんこそ死ねばよかとっ。兄ちゃんのはよう死ねば、こん子なんも知らんで生きるじ
　やろがっ。もう、うちから離れておくれっ、兄ちゃんっ。
三郎　わりゃっ、変ったのうっ。
良子　兄ちゃんっ。こん人死ねばよかとにって、うち思いよった。こまかときから。父ちゃんも、
　母ちゃんも、兄ちゃんも、はよう死ねばよかとにって。
三郎　ぬしゃ、あん良子か。ぬしゃ。
良子　なんのあったとねっ、兄ちゃんっ。どこでなんばしよったとねっ。死ぬつもりじゃろがっ、

兄ちゃんっ。

三郎　……人ば殺した。おいのごたる男じゃった。

良子　兄ちゃんっ。

三郎　殺さんば殺されたっ。いつでんそうっ、どこでんそうっ。殺さんば殺さるるごたるとこでしきゃ生きられんとぞっ。良子っ、もう生むなっ、良子っ。

良子　やわかことばっ。

三郎　だぼっ。

良子　動きしゃんなっ、兄ちゃんっ。死ぬよっ、うちっ。

三郎　死んでんないやあっ。

良子　やめてっ、やめておくれっ、兄ちゃんっ。そぎゃんひどかことばあっ。

三郎、かまわず良子に近づくと髪の毛をひっぱる。

三郎　きてんないっ。あん山椒魚に聞いてんないっ。ぬしん身体あん清水にひたしちゃるけんっ。ようと山椒魚に聞いてんないやあっ。

三郎、泣き叫ぶ良子引き摺って境内の裏へ走り去る。

保造　悪の限りを尽しサブ、良子。
昭子　ハモニカやめんねっ、満鉄ちゃんっ。こぎゃんほっぽほうらいやりよるうちばあっ、なあしだいもかいも黙っとっとねっ、兄ちゃんっ。うちゃっ、死ぬまで兄ちゃんばっ、兄ちゃんって。

喧嘩仕度の銭湯屋吾一が走り込んだ。

吾一　おおっ、素好っ。どうな喧嘩状なあっ。（昭子に気づいて）なんかっ、ぬしゃっ。
昭子　やっちゃるけんねっ。
吾一　（昭子の頬を音たてて殴って）なんばほたえよっかっ。
昭子　あっ、ぬしゃっ。
吾一　（また音たてて殴って）陣取り合戦しよるつもりかっ、だぼっ。
昭子　（ついに泣いた）またあ力いっぴゃあに。こぎゃんにっ、おなごばあっ。
保造　泣あたっ。昭子の、泣あたっ。
大徳　泣あたっ、ころってっ。
昭子　（泣いて）ひどかじゃなかねっ、あんましじゃなかねっ。うちっ、うちっ。

吾一　（昭子へやさしく）よかっ。もう泣くなっ、のっ、おとなしゅうしとれっ。
昭子　……。
吾一　よかっ。のっ、おとなしゅうしとれば荒事たあせんっちゃからっ。のっ、ほりゃっ涙ば、のっ。
昭子　……うんっ。
大徳　ほう。
保造　これかあ、テクニックっちゃあ。
大徳　……よかのう、極道ちゃあ。
吾一　（得意である）死ぬまで働かんっちゃからっ、決めたっちゃからっ。泣くなよい昭子っ。よかっ、もうよかっ。
竹之丞　（紅白の幕の下から顔を出して）なんないっ、こりゃなんないっ。昭子さんっ、そりゃなかじゃろがっ、やっさもさらにやるちゃろが。ジャンヌダルクじゃろがっ。
大徳　黙っとれっ、だぶだぼっ。
保造　おう、おなごはころって変るぞっ、ころって、のう。
大徳　噂に聞いとった。週刊誌でも読うだっ。ばってこうもころっと。まともな人間に会いたかにゃ。
保造　たまらんっ。人生のこうゆう矛盾がっ。ああよかあ天気のう。おくんちおくんち。こりゃ

吾一、あせがれよい。はよせんと今日の松浦どこもかしこも旅館な満員ぞ。昔っから祭の夜は、のう。んにゃばって、ほっとしたのう、なあんか。

大徳　なあんかっ、ほっとしたのう。

素好　おりゃどぎゃんなっとかっ、おりゃっ。二年生にして番長のっ、苦学生のっ、全国ネットワークのおりゃっ。

吾一　やぐらしっ。してっ神原なあっ。

素好　おうっ、おりゃこうゆうたぜっ。ゴーストタウンの解体なあ祝賀二郎一家がやるっちゃからっ、ぬしどまあ手ばひきないっ。でけんっちゅうとならしょんなかっ。やるならやるごとしまっしょでえっ。ぎろっ。ほりゃ喧嘩状でござすっ、ぎろっ。

吾一　おう、やったなっすごんだなっ。よっしゃっ。

素好　びしっというちゃったっ。びびっとったぜっ、三百人からの大人がっびびっとったぜっ。ぎろっ。いうちゃったぜえ、おりゃっ。電話でっいうちゃったぜえっ、電話でぎろっとすごんでっ。

吾一　なんてっ。

素好　そいけんっ、電話でぎろってすごんでのっ、喧嘩状なあ郵送したけんでっ、決まったぜっ、こりゃっ。

吾一　（素好を殴って）わりゃっ、口上ば電話でいうて、喧嘩状ば郵送する極道のどこの世界に

おっかっ、だぼっ。

素好　よかじゃろがっ、速達じゃからっ。

吾一　あほたれっ。こん表現不可能のあっぽっ。相手はプロぞっ。いうなればプロ野球と高校野球が喧嘩すっとぞっ。はったりかまさんかっ、ぬしゃ。くそっ破門しちゃるっ。ぬしゃ破門しちゃるっ。緊急幹部会で破門しちゃるっ。

素好　なんなっ、なんない吾一っ。えらそうにっ。おいば破門っ。やってんないっ、中小企業がっ、やってんないやっ。逆破門しちゃろかっ。

吾一　よたごろがあっ。逆破門。なめとるのっ、わりゃっ。よっしゃ、組織ば強化しちゃるっ。なにがなんでん、ぬしば鉄砲玉にしちゃるっ。

散弾銃手にして、捨吉が走り込んだ。

捨吉　どうなっ、どうないっ。こっちゃどうないっ。

吾一　おうっ、暴力金融っ。

捨吉　あほたれっ、このっ。

吾一　どうなっ。

捨吉　たまらんぜっ。たまらんぜっ、おりゃっ。なんもおい一人の責任じゃなかじゃろがやっ。

ぬしどんの観たかっちゅうけん、親父だまくらかしての８ミリじゃろがやっ。たまらんぜっ。

吾一　どぎゃんしよるっ、どうなっ。

捨吉　死ぬぞっ、祝賀しゃんなあ死ぬぞっ。

吾一　なんてっ、たまっかやっ、そりゃっ。

捨吉　たまらんぜっ。ぶつぶつぶつぶつわけくちゃわからんことばぐじえってのっ。ぐじえって、じりっじりってにじりよるとぜ、たまらんぜっ。

吾一　廃坑ばかっ。

捨吉　たまらんよ。骨噛（ほねがみ）ぞっ、黒不浄ぞっ。（地を指して）こん下ば、廃坑の奥へ奥へってじりじりにじりよっとぜっ。たまらんぜっ。

吾一　（地を見て）おばばなあ、和子さんなあ。

昭子。重く静かに太鼓を叩く。地の底から〝じゃしっじゃしっ〟の音が聴こえるように。

捨吉　空気の汚れはてとる闇ば、じりっじりって。

どどどどっと捨吉が太鼓を叩いた。

捨吉　倭子っ。帰ゃあってきないっ。ぬしの兄ちゃんなあのう、倭子よいっ。倭子、ぬしゃ飢えてよう泣ゃあたろがやっ。ぬしんおふくろなあ、ぼろぼろの布団ば、夜中にこそっとかろうてっ、質にっ。なんのはずかしかことのあっかあ、のう、倭子。ぎりぎりいっぴゃあやったとぜっ、そん金でお粥ば喰ろうたろうがやっ。もうよかっ、帰ゃあってきないっ。きないっ、倭子っ。海はあっとぞうっ。

ししゅうるるるうぽうんと近く大空に花火。どうっと喊声。

応えてすぽんすぽんすぽんと花火の連続音。ぐんぐんと近づく漁船団のエンジンの音。

素好　始まったあっ、クライマックスやっかあっ。

竹之丞　（紅白の幕の下から顔を出して）わあっ、海にっ、合戦絵巻のっ、兄ちゃんっ。

三津五郎　（紅白の幕の下から顔を出して）おうっ、いっぴゃあの人の、命の。絵巻になって、海にみそぎよるやっかあっ。波のしぶいて海に沈んだいろんないろいろのっ。

竹之丞　海に流れたこん松浦の罪とけがればあっ。ごろうじ、ざんぶと海の呑みこむやっかあっ。

素好　行列のっ、御神輿のねり歩くっ。始まっぞうっ、わくわくする。

〝ぎゃあっ〟とずぶ濡れの良子髪振り乱し、血したたらせて神社神殿の扉蹴破って裸舞台

へ駆けあがった。扉のむこう岩清水の中に蹲く山椒魚ぎゅうと摑んで下半身清水につかって刺青の三郎が……。山椒魚からぽたぽたと血したたり清水を染める。

良子　（震えて）なんちゅうことばあっ。お兄ちゃんっ、なんちゅうことばあっ。

三郎　なんないっ、おいに罰のあたるってなっ。あててんないっ、あててんないやあっ。ほりゃっ、死んだっ、死んだぞうっ。

三郎山椒魚を神殿へ投げる、山椒魚べたっと音たてて神殿中央の貢物の中へ……。

三郎　（神殿へ）だいか、おっとかあっ。おっとならやってんないやあっ。おりゃ三郎ぜえっ、悪の限りば尽し三郎ぜえっ。なんなら鉛ぶちくらわしちゃろかっ、わりゃっ。（裸舞台へ駆けあがった）。

良子　お兄ちゃんっ、なあしそぎゃんになったと、なあしっ。まっとなぶればよかとっ。うちばまっとなぶればよかとっ。ええいっ、なあしお兄ちゃんなあうちのお兄ちゃんじゃろかあっ。

三郎　だいの子なっ、どこのだいの子なあっ、そりゃあっ。おうっ。

良子　よかじゃろがっ、だいの子でんっ。

三郎　そん男なあおいにとらんじゃったかっ、おうっ。死んだ親父にとらんじゃったかっ、

おうっ。わりゃっそん男になぶらるるときだけほっとせんじゃったかっ、おうっ。

良子　ひどかことばあっ、ひどかことばあっ。

三郎　なぶらるればなぶらるるほどっ、うれしゅうはなりゃせんじゃったかっ、おうっ。酔うてどまぐれてっ、ぬしばぼたうちくらわす男のっ、さるればさるるほど、うれしゅうはなりゃせんじゃったかっ、いとしゅうはなりゃせんじゃったかっ。良子っ、そぎゃんされておいのおふくろなあおいば生んだとぞっ。ぬしば生んだとぞっ。わりゃっ、もうだいよりも親父よりも兄ちゃんよりも、そん男がせつなかろうがっ、おうっ。

良子　兄ちゃんっ、わがこたあわがでやるけんでっ、兄ちゃんっ。

三郎　のう良子。

良子　いやっ。兄ちゃんないつでんそうっ。わあがほっぽほうらいやっとって。うちにゃあせろのっこうせろのって。うちっ、うちっ。

三郎　良子っ。

良子　なんばしてくれたねっ、兄ちゃんっ。うちになんばしてくれたねっ。あいが三郎の妹ぞっ、悪の限りを尽し三郎の妹ぞって、うちっうちっ。

三郎　よかこたあ覚えとらんとか、なあんも。

良子　覚えとるっ。こん松浦から離るる時。兄ちゃんの姿の遠うなる時っ。

三郎　どぎゃんしてでん生むっちゅうとかっ。

良子　生むっ、生んじゃるっ。どぎゃんしてでんっ。
三郎　わりゃっ。（良子の首をもたげて）ほりゃっ、こぎゃんツラしとるぞっ、そんガキゃあっ。

三郎、泣き叫ぶ良子引き摺って境内の裏へ走り去った。その剣幕の凄さに若者たち境内のあちこちに散っていたが、素好と吾一が捨吉の散弾銃に威されて飛び込んだ。

吾一　なんなっ、どうなるもんじゃなかろがやっ。極道しちゃれっ、どこばどうしたっちゃ、どうなるもんじゃなかろがやっ。
捨吉　やぐらしっ、きないっ、きないってっ。
吾一　やめれっ、こりゃ、捨吉やめれっ。
捨吉　ぬしゃ、きたなかぞっ、吾一。
吾一　ほたえなっ、だぼっ。悲しかなら悲しかっちゅうて悲しゅう生きんばいけんとなっ。苦しかなら苦しかちゅうて苦しゅう生きんばいけんとなっ。なあしないっ、こんしこの一生ばあっ、なあしないっ。
捨吉　わりゃっ。
吾一　しょんなかのう。つんのうじゃる、きないっ、素好っ。
素好　おりゃ、サーカスっ。

捨吉　やぐらしっ、きないっ。

捨吉、素好をひっぱって吾一と廃坑へ走る。昭子が走り込んだ。

昭子　そうはさするもんねっ。おねえちゃんのあん白か裸身ばこん太陽の下にさらけだしちゃるっ。首からぽたぽた血いしたたらせとるおねえちゃんばっ、うちがあっ。

昭子、廃坑へ走る。

満鉄　悲しかなら悲しかっちゅうて悲しゅう生きんばいけんとな、のう。夢んごたる、ここでこぎゃんしとると、なんもかんも夢んごたる。

西浦のおばば　ここも、夢んごたる。

満鉄　おいの一生ぐらい、おいの思うごとさせてくれたっちゃあよかろそうなもんに、のうおばばよい。人はやましかけんでやさしゅうなるっちゃろかい。やさしかけんでやましゅうなるっちゃろかい。

西浦のおばば　ぬしゃ、人ば殺したことのあるばいね。

満鉄　忘れたあ。

西浦のおばば　うちん人も、ほかの人あしたばって、おりだけはせんじゃったっていよらした。
酔うと聞きもせんとに。おりだけはって。こりゃ聞いた話って。（ほっほっと笑って）男は、
男たいねえ。
満鉄　こぎゃんなるたあ知らんじゃった、こぎゃんなるたあっ。
西浦のおばば　けろっとしないっ、おなごのごと。
満鉄　おっとばってなあ、あすけえ、おいの。

満鉄ハモニカを吹く〝オールドブラックジョー〟。大徳、保造、三津五郎、竹之丞がおそるおそると……。

三津五郎　おりゃ、おいに生まれてよかったっちゃろのっ。
保造　なんがっ。
三津五郎　んにゃ。なんばしょっちゃろかいおりゃって、ふうっと。
保造　あいどまあ、どぎゃんするっちゃろかい、こいからあ。
竹之丞　なんなっ、なんないっ、そりゃっ。きたなかぞっ、ぬしどまあっ、ぬしどまあっ。
保造　どぎゃんせろってっ。
竹之丞　なんてっ。

保造　したらっ、どぎゃんせろってなっ。

紅白の幕の下からひょいっと廃坑のおばばが顔を覗かせた。

廃坑のおばば　ありゃ。なんなっ、まぶしさあ。

保造　なんなっ、おばばっ。

廃坑のおばば　はい、よかお日和で。んにゃあ、久しゅう潜らんと、勘のくるうて。ひょいっと、こけえ。（ほっほっと笑って）あいたこりしょ、どっこいしょ。どうじゃろかい、船の。きれさあよう。

保造　おばばっ、おばばよいっ。祝賀しゃんなあっ、和子さんなあっ。

廃坑のおばば　んにゃあ、そいがくさ、はぐれて。あのう、ありさ。よういどけおるとなあちゅうと、いろうんなとっからここぞうってばい。棲んどるっちゃろかい、まあだ狐の。ここぞうって、いっぴゃあ。

竹之丞、太鼓を叩く。

廃坑のおばば　ほう。生きとる生きとるっ……。

保造　おばばっ。

廃坑のおばば　あらごうてどうなるもんでもござっせん、なあ、おばば。

西浦のおばば　なあいさりゃ。

廃坑のおばば　ありゃ、みごとじゃござっせんな、菊の。のう。

西浦のおばば　なあいさりゃ。命日で、今日が、あん人の。

廃坑のおばば　ありゃ、ほんに。ころっと忘れとったのが、今日が命日、傷のうずくはず、血のにじむごと。

竹之丞、太鼓をくだけよと打つ。紅白の幕は太陽のまぶしさに黒白の幕と見紛う。

闇。遠く太鼓の音。もう廃坑の入口はない。燭台の火がゆれる。ゆれる火に祝賀二郎と和子。

和子　こぎゃんおなごよ、うち。

祝賀二郎　……んにゃ。

遠く、倭子の声。

倭子　ここでこうしとっても、ほりゃ聞こゆるじゃろ、お兄ちゃんの餞別にうちに買うてくれたオルゴールの、乙女の祈り。さみしゅうなったら、うちこいば聞くと。すっとオルゴールからいっぴゃあ、いろんないろいろの、お兄ちゃんとのいろんないろいろの。うち明日が楽しみの毎日よ、お兄ちゃん。四国のほうによか仕事のあるとって。また住所変るけど、ごめんね。そいから、こいからはあんまし便りせんけど、心配せんでね。いうじゃろ、便りのないのはよい便りって。今度会う時はいつじゃろかね、お兄ちゃん。

倭子　ごぎゃんおなごよ、うち。

祝賀二郎　んにゃ。倭子っ、倭子じゃなかな。

和子　……。

祝賀二郎　ちごうた。

和子　ここは、松浦ね、まあだ。どけえいきよると、うちたち。

祝賀二郎　倭子っ。

祝賀二郎、和子を抱く。

和子　お兄ちゃんっ。

〝よういっ〟の声が〝ぐわああんあんあんあんあん〟と廃坑に響く。

〝お母ちゃあん〟の声が〝あんあんあんあん〟と廃坑内に響く。

どっと喊声、轟くエンジンの音。おくんちはクライマックスである。くだけと太鼓を叩いている竹之丞、三津五郎はげしく面浮立を躍り踏む。

竹之丞　（遠くを観て）ブルぞっ、ブルトーザーやっかあっ。ほりゃ、神原組のブルトーザーのっ。ほりゃっ、あぎゃんにびっしり海ぞいにっ、国道ばっ。ほりゃ蒙古襲来の防戦のっ。だぼっ、骨のごろごろしとっとぞっ、やめれっ、こりゃっ。

〝ぎゃああっ〟と良子の声。

保造　ああっ、良子のっ。でけんっ、神原組なあゴーストタウンの解体ば今日やるつもりぞっ。でけんっ、大徳っ。

三津五郎　竹之丞っ、太鼓ば叩けっ。叩いて叩きつぶせっ。海の大祓ばやっとなら、今日の海の

罪とけがれば呑みこむとならっ、かんまんっ、竹之丞っ。
竹之丞　兄ちゃんっ。
廃坑のおばば　……いよいよやあ。

竹之丞、太鼓を叩く。三津五郎踊る。

満鉄　いくとなっ、おばばっ。
西浦のおばば　なあいさりゃっ。
満鉄　すまんやったなあ。
西浦のおばば　なんの、夢、夢。

西浦のおばばの手に出刃包丁。廃坑のおばばの手にカミソリ。太鼓と面浮立の中、二人のおばば裸舞台へじりっじりっとにじり寄り対立する。もう二人のおばばの動きは老婆のそれではない。

西浦のおばば　……やってくんしゃったねえっ、あんたあっ。
廃坑のおばば　まぶしかとっ、あんたがまぶしかとっ。

太陽に出刃包丁とカミソリがきらっと光り、紅白の幕は黒白の幕と見紛う。
踊るように舞うように二人の女動く。

西浦のおばば　こぎゃんしたかったとよ、うち。
廃坑のおばば　あん世で、よろしゅうに、あん人に。

二人の女の首からぴゅううと鮮血。

西浦のおばば　きれさあ。あんたの血の。
廃坑のおばば　ほんに、きれさあ、あんたの血の。

二人の女重なり倒れる。
静。
〝きゃあっ〟と良子の声。
ししゅるるるぽうんと花火一発。どどどっと波。負けじと竹之丞太鼓を打つ。轟くブルトーザーのエンジンの音ぐんぐん近づく。

朽ちた本殿がどっと落ちた。岩清水の中に良子抱いて三郎。

三郎　甘ゆんな、良子っ。こりゃわがで歩きないや。ぬしゃいつでんおいに甘えて。いこか、のっ、良子よい。……のう。

どぐわあんっと大音響。ブルトーザーの爪が神社を抉ってにゅっとでた。びしんっと音たてて境内が落盤する。がががんと乱立する廃坑の柱の群れ。遠くゴーストタウンから吹く風は廃坑くぐってずごっと噴射した。廃坑内のいままでの洗い浚いが晒された。きらきらと太陽に光ってそれは雪と見紛う。

三郎　……ごろうじ良子。おいのあくたれに罰ばあつるごと。ぬしと遊びほうけた廃坑の、ほりゃっ太陽に晒されよる。まぶしゅうはなかなっ、親父よい。まぶしゅうはなかな、風よい。まぶしゅうはなかな。なんないっ、雪のごと。ぬしどまあそぎゃんにきれかったとなあ。はずかしゅうはなかな、ぬしどまあ。雪になって、わがでわがばつつむとなあ、ぬしどまあ。

遠く晒された廃坑の底から和子の唄う〝肥前松浦兄妹心中〟。三郎ゆっくりと廃坑へ……。見送ってブルトーザーの爪に神原満がいる。

満　（遠くゴーストタウンへ）やれやあっ。

だだだだあああんと連続するダイナマイト。

満鉄　……よい満。

満　……。

満鉄　……満。

満　（遠く、ゴーストタウンへ）やれやあっ。

だだだだあああんと連続するダイナマイトの炸裂音。ぶおんっと曝けだされた廃坑から風が吹く。

満鉄　満っ。

満　やれやあっやれやあっ。

ごろごろごろと曝けだされた廃坑に風が吹く。

〝肥前松浦兄妹心中〟の唄が……。曝けだされた廃坑はすぐそこに……。
昭子を抱いて白い着物朱に染めて和子がいる。

和子　……お兄ちゃんっ。
満　（かまわず）やれやあっ。
和子　どけえいきよると、うちたち、お兄ちゃん。

闇の水浸しの廃坑に祝賀二郎一人。
倭子の声が「乙女の祈り」にのって遠く。

倭子　今度会う時はいつじゃろかね、お兄ちゃん。もし、もしもよ、倭子が死んだら泣いてくるるね、お兄ちゃん。泣いてくるるよね。うちの骨はこんオルゴールといっしょに海にしずめてよね、お兄ちゃん。また変なかことば書いた。お兄ちゃんのお嫁さんになるとって決めとったとよ、うち。お兄ちゃんとずっといっしょにおればよかったとかね。……なんか眠とうなった……。
祝賀二郎　倭子っ。おいがいっちゃるけんっ。そこば動くなよういっ、倭子っ。お兄ちゃんのっ、死んで、風になったっちゃあそけえいっちゃるけんっ。そこば動くなよういっ、倭子っ、倭子よ

ういっ。

その声は〝よんよんよん〟と廃坑内に響く。祝賀二郎トロッコに乗る。〝やれやあ〟の声が〝やんやんやん〟と廃坑内に響く。連続するダイナマイトの炸裂音。落盤、堰を切って海がなだれ込んだ。トロッコは、〝ごわんんんごうううう〟と消えた。

廃坑の柱の群れが乱立する境内をごうううっと音させて、空いっぱいに炎にじませ、ごうぐらぐらと夕日が雪のむこうに沈む。

和子　……夢んごたる。

満鉄　……夢んごる。なんもかんも。

満　やれやあっ、やれやあっ、やれやあっ。

ダイナマイトの炸裂音の中に和子、満鉄崩れた。

満　やれやあっ。

ゆらゆらと海のむこうに沈む夕日は海に長く影を残す。それは昭和と読めないこともない。

満　やれやあ……。

〝肥前松浦兄妹心中〟ゆっくりと流れた。

完

参照　山本作兵衛著『ヤマの仕事』
藤田五郎著『やくざ逆破門状』

底本
『現代日本戯曲大系　第11巻』　一九七八～一九八〇
株式会社三一書房
一九九七年十二月三十一日　第一版第一刷発行